

第2回 研究データエコシステム 中国四国コンソーシアム シンポジウム



令和7年（2025年）3月13日

～即時オープンアクセスにどう対応していけばいいの？～
「山口東京理科大学におけるオープンアクセス加速化対応について」



学長補佐・特任教授
塩満典子

本日のご説明の流れ

0. 自己紹介

1. 山陽小野田市の概況

2. 山陽小野田市立山口東京理科大学の概況

3. 我が国におけるオープンアクセス加速化（OAA）事業の推進

4. 山陽小野田市立山口東京理科大学のOAAの取組

5. OAAによる共創と今後に向けて

**即時オープンアクセス、機関リポジトリ、グリーンOA、APC、データの著作権、
公知と特許、整備システムの大学単独契約、オープン・クローズ戦略、
OAA人材、研究データマネジメント人材、プレプリント**

オープンサイエンス振興による公立大学の地方創生への 貢献と高度研究データ活用人材の育成

日時：2025年3月5日（水）13時30分～17時00分

場所：山陽小野田市民活動センター 会議室1B

（山陽小野田中央二丁目3番1号 Aスクエア）

参加者：一般公開（対面とオンラインのハイブリッド）

申込方法：フォーム (https://select-type.com/ev/?ev=cRDJjbS_KDE)

または右記QRコードからお申込みください。



【プログラム】

主催者挨拶

山陽小野田市立山口東京理科大学 学長 武田健

来賓挨拶

文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付 学術基盤整備室長 土井大輔氏
山陽小野田市長 藤田剛二氏
モートンベイ市長 ピーター・フラナリー氏

山口東京理科大学におけるオープンアクセス加速化事業報告

「研究情報管理システムの構築と研究成果の可視化・発信、産学官連携」
山陽小野田市立山口東京理科大学 学長補佐・特任教授 塩満典子

基調講演

「オープンサイエンスがイノベーションに与える多面的な影響：
オープンアクセス、研究データ共有、シチズンサイエンス」
文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長 林和弘氏

「オープンサイエンス:クィーンズランド工科大学における研究成果の創出と協力関係の促進」
クィーンズランド工科大学 図書館 学術コミュニケーションサービス
マネジャー ステファニー・ブラッドベリー氏

「企業における研究論文・データ分析とオープン・クローズ・イノベーション戦略」
三菱ケミカル株式会社 フロンティア & オープンイノベーション本部
グローバルリサーチパートナーシップ部 部長 清水史彦氏

参加者との意見交流&パネル・ディスカッション

「オープンサイエンス振興による公立大学の地方創生への貢献と高度研究データ活用人材の育成」

パネリスト:

サンシャイン・コースト大学 保健学部 病態生理学教授・研究担当副学部長
ロバート・ハーベイ氏、基調講演者
外部有識者評価委員会委員長による講評
国立大学法人山口大学理事、元総合科学技術・イノベーション会議議員 原山優子氏

閉会挨拶

山陽小野田市立山口東京理科大学 理事長 池北雅彦

本シンポジウムは、文部科学省「人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金（オープンアクセス加速化事業）」の一環として開催いたします。

土井大輔氏

文部科学省研究振興局
参事官（情報担当）付
学術基盤整備室長



土井氏は、日本のオープンアクセス基本方針のもと、大学等におけるオープンアクセス活動の推進に取り組むとともに、国立情報学研究所（NII）による日本の中核的な研究データプラットフォーム「NII RDC」の運営・開発の支援を行っている。

ピーター・フラナリー氏

モートンベイ市長



フラナリー氏は、従来の中央ビジネス地区（CBD）モデルから戦略的に転換し、「ポリセントリック・シティ（多中心都市）」として知られる、ビジネスエリアと居住エリアの相互をつなぐネットワークの形成により、モートンベイ市を重要な地域として確立することを主導してきた。市の人口増と急成長の中で、市全域をつなぐネットワークとインフラの整備を推進するとともに、「成長しながら環境を守る」という使命のもと、75%の土地を緑地として保全し、開発との適切なバランスの確保も目指している。

ステファニー・ブラッドベリー氏

クィーンズランド工科大学図書館
学術コミュニケーションサービス
マネジャー



ブラッドベリー氏は、研究の透明性と研究プロセスのあらゆる側面、特に研究成果のアクセスを向上させることを目的としたオープンサイエンスに情熱を傾けている。また、イノベーションとシームレスなサービス提供を実現するための部門横断的なコラボレーションの提唱者でもある。

ロバート・ハーベイ氏

サンシャイン・コースト大学
保健学部病態生理学教授・研
究担当副学部長



ハーベイ氏は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとサンシャイン・コースト大学で、学者や博士課程の学生にオープンアクセス出版のトレーニングを行ってきた。また、透明なピアレビューシステムを運営するオープンアクセス・ジャーナル『Frontiers in Molecular Neuroscience』の分野チーフエディターを務めている。彼のミッションは、科学の出版物やデータをオープンアクセス化し、協働イノベーションの促進を図ることである。人々の生活、コミュニティ、そして環境改善のための解決策を提供できることを目指している。

藤田剛二氏

山陽小野田市市長



藤田氏は、山陽小野田市において、官民連携によるデジタル化を積極的に推進し、地域課題の解決や市民生活の質の向上、業務の効率化に取り組んでいる。また、市が設置している山口東京理科大学と連携してのデータ分析、活用等によるスマートシティを推進している。

林和弘氏

文部科学省科学技術・学術
政策研究所（NISTEP）
データ解析政策研究室長



林氏は、オープンサイエンスの専門家として、G7科学技術大臣会合、OECD、UNESCOのプロジェクト等において、世界における新たな学術知を生み出す基盤のトップダウンのコンセンサスづくりに貢献した。また、日本のオープンサイエンス政策形成の支援も行っている。

清水史彦氏

三菱ケミカル株式会社 フ
ロンティア & オープンイ
ノベーション本部/グロー
バルリサーチパートナー
シップ部部长



清水氏は、オレフィン重合触媒の研究開発分野で先駆的役割を果たしてきている。また、最先端の研究データベースと分析ツールを効果的に活用し、世界の研究活動を包括的に分析することにより、最適な協力パートナーの特定を行っている。

原山優子氏

国立大学法人山口大学理事、
元総合科学技術・イノベ
ーション会議議員



原山氏は東北大学の名誉教授であり、GPAI（AIに関するグローバル・パートナーシップ）東京エキスパート支援センター事務総長、東レ株式会社取締役を務めている。また、理化学研究所理事、内閣府総合科学技術・イノベーション会議常務議員、OECD科学技術産業局の副局長等の指導的役職を歴任した。2011年にはフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章し、国際学術会議フェローに選出されている。

自己紹介 塩満典子（しおみつ のりこ）

1984年 東京大学理学部生物学科卒（神経生理・行動学）

科学技術庁入庁（ライフサイエンス、原子力、研究交流等）

1988年～1990年人事院留学（ハーバード・ケネディ行政大学院 公共政策学修士）

1990年～1997年 科学技術庁（広報、調査、情報安全規制、政策立案・評価等）

1997年 放射線医学総合研究所 企画室 総括研究企画官（平成4年版科学技術白書「科学技術の地域展開」）

1999年 科学技術振興事業団（JST）国際室調査役

2001年 文部科学省 研究開発局 宇宙政策課調査国際室長

2002年 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術調査センター教授

2004年 内閣府男女共同参画局企画官、参事官・調査課長（平成17年版男女共同参画白書、男女共同参画基本計画（第2次）、第3期科学技術基本計画）

2006年 日本科学未来館企画総括室調査役， 2007年 文部科学省大臣官房付

2007年 お茶の水女子大学教授・学長特別補佐

2009年 科学技術振興機構（JST）科学技術振興調整費業務室長

2011年 同 科学技術システム改革事業推進室長

2012年 宇宙航空研究開発機構（JAXA）国際部参事、男女共同参画推進室長 等

2015年 理化学研究所（RIKEN）仁科加速器科学研究推進室長、ダイバーシティ推進室長代理

2016年11月、Nh-113（ニホニウム）命名式典開催

2018年 宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空技術部門事業推進部次長

2021年 文部科学省 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）上席フェロー（2022年3月定年退職）、中部大学客員教授（継続）

2022年 山陽小野田市立山口東京理科大学研究推進部長、特命教授、JAXA航空技術部門客員（継続）

10月～ 広島大学未来共創科学研究本部副本部長・特命教授（クロスアポイントメント）

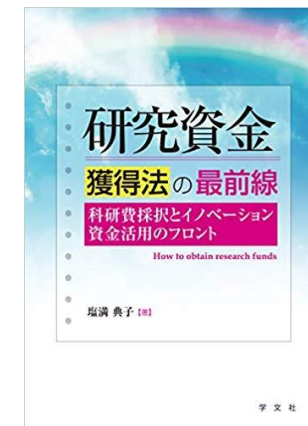
2023年4月～専任、学術・社会連携室研究戦略部長兼務 6月～一般社団法人日本原子力学会理事

2024年4月～ 山陽小野田市立山口東京理科大学学長補佐・特任教授 6月～公益社団法人日本工学アカデミー理事

2007年 日本女性科学者の会功労賞、2021年日本原子力学会ダイバーシティ貢献賞優秀賞、2024年日本工学アカデミー会員が選ぶ事業貢献賞

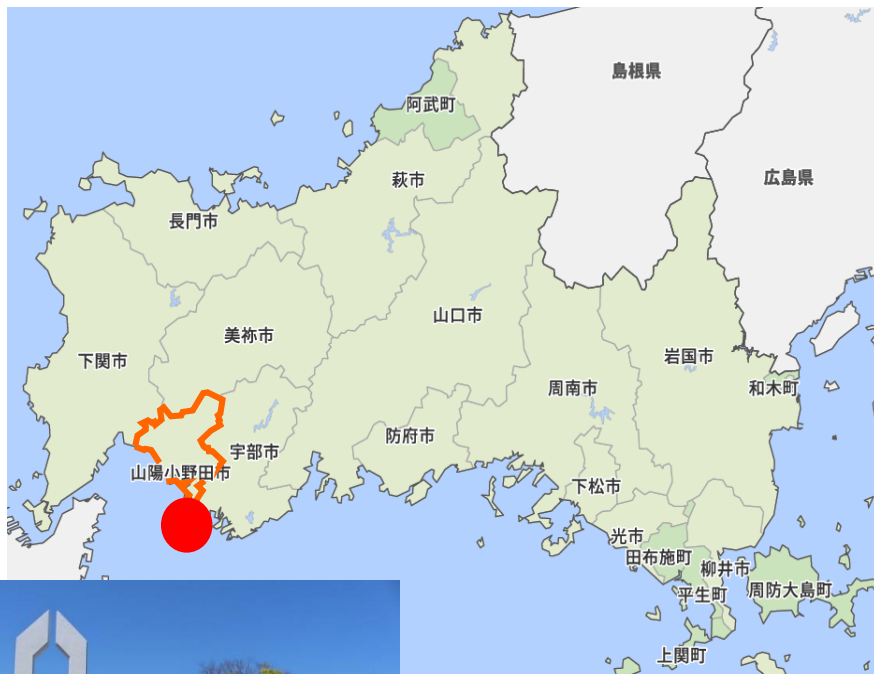
著書：『研究資金獲得法』（共著、丸善、2008年）、『科研費採択に向けた効果的なアプローチ』（共著、学文社、2016年）

『研究資金獲得法の最前線～科研費採択とイノベーション資金活用のフロント』（学文社、2019年）



研究資金獲得法

山陽小野田市立山口東京理科大学



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

- 1987年 東京理科大学山口短期大学
- 1995年 山口東京理科大学（4年制大学）
- 2016年 公立化し現在の名称となる



建学の精神

理学の普及を以て国運発展の
基礎とする

基本理念

世界的視野で物事を思考できる
人間性豊かな人材の育成

波及効果の期待できる独創的

- ・ 先進的研究の推進

教育・研究と地域貢献が一体化した
生涯教育の充実

緑の中でキラリと光る研究学園都市 山陽小野田市

①ソルボニエンテ



②本山岬



③焼野海岸の夕陽



⑥竜王山公園



⑧竜王山のヒメポタル



④ガラス未来館



⑩幸せの鐘



⑨花の海



⑪江汐公園のつつじ



⑮きらら温泉



⑬山陽小野田中央図書館



⑫新幹線厚狭駅



⑭帆万里温泉



⑯徳利窯



⑰朝陽 CC



⑳サンパークおのだ



⑤きららビーチ焼野



⑦山手倶楽部



⑨きらら交流館のフグ料理



⑰山陽小野田市民病院



山陽小野田市の人口 約60,000人

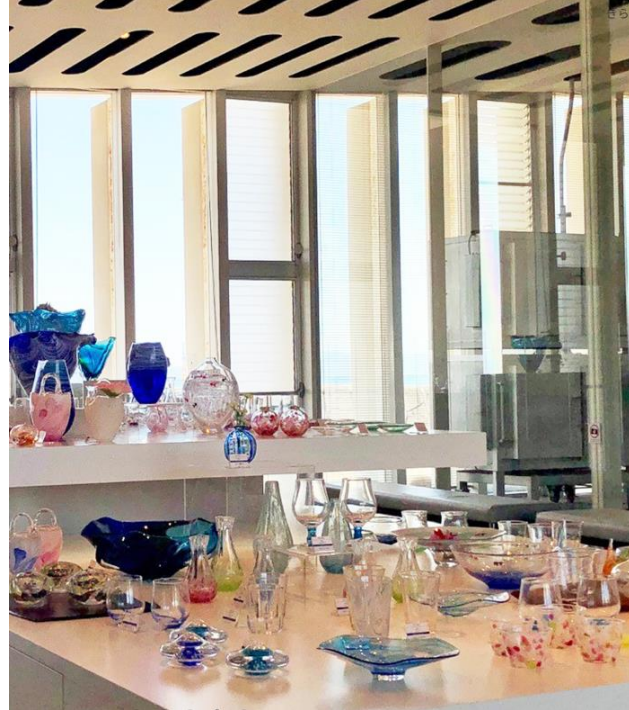
理科大学の学生数 約2,000人

大学生が占める割合 約3.3%

市内の30人に1人が
山口東京理科大生

地域の皆様と共に
研究学園都市を創造

山陽小野田市：人口 5万9,125人
(令和6年3月末現在)



Sanyo-Onoda City has a long history as a ceramics town. In the late century, it thrived as a sueki (Sue ware) production center. The **Dan Nobori-gama** (Dan climbing kiln), built around 1840, later contributed to the local industry through sulfuric acid bottle production.

A vertical kiln used for cement production at the **Former Onoda Cement Manufacturing Company**, founded by President Junpachi Kasai, res sake flask and was nicknamed **Tokkuri-gama** (flask kiln). It is now designated an Important Cultural Property of Japan.

In 2004, the **Kirara Glass Future Museum** was established to promote glass culture. The city, private sector, and artists work together to develop through glass artistry.



山陽小野田市は、昔から窯業のまちとして発展してきました。6世紀後半には「須恵器」の生産地として賑わい、1840年頃に作られた「旦の登り窯」は、後の地場産業として盛んになった「硫酸瓶」の製造へとつながりました。

その形状が酒徳利に似ていることから「徳利窯」の通称で親しまれている「旧小野田セメント製造株式会社竪窯」（会社創設：笠井順八社長）は、国の重要文化財に指定されています。

平成16年に市のガラス文化の発信拠点として「きららガラス未来館」が誕生し、市と民間とガラス造形作家が三位一体となったガラスをテーマにしたまちづくりに取り組んでいます。

山陽小野田市立山口東京理科大学の紹介ー I

学生

学部・学科等		在学生数 (人)		
		合計	男性	女性
工学部	機械工学科	268	249	19
	電気工学科	268	249	19
	応用化学科	316	184	132
	数理情報科学科	125	106	19
	医薬工学科	62	16	46
薬学部	薬学科	735	284	451
大学院	工学研究科	60	53	7
	薬学研究科	6	3	3
合計		1,840	1,144	696

在学生数：1,840人 教職員数：194人

(令和6年5月1日現在)

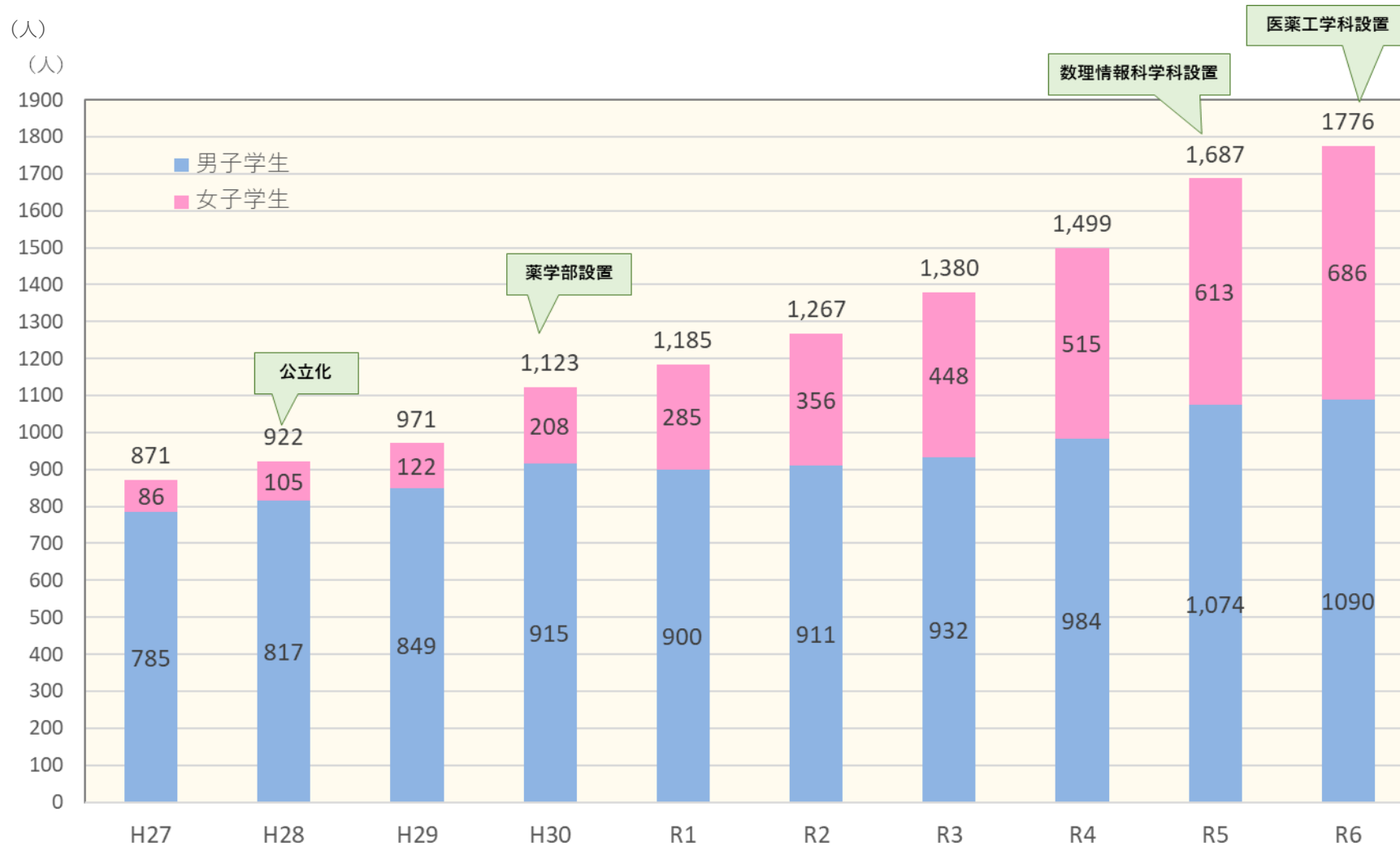
山陽小野田市立山口東京理科大学の紹介－2

教員

学部・学科等		教員数		
		合計	男性	女性
工学部	機械工学科	12	11	1
	電気工学科	10	10	0
	応用化学科	13	12	1
	数理情報科学科	10	10	0
	医薬工学科	10	8	2
薬学部	薬学科	43	40	3
共通教育センター		17	10	7
合計		115	101	14

工学研究科 工学専攻26名、数理情報科学専攻10名
薬学研究科 薬学専攻17名

在学生数の推移

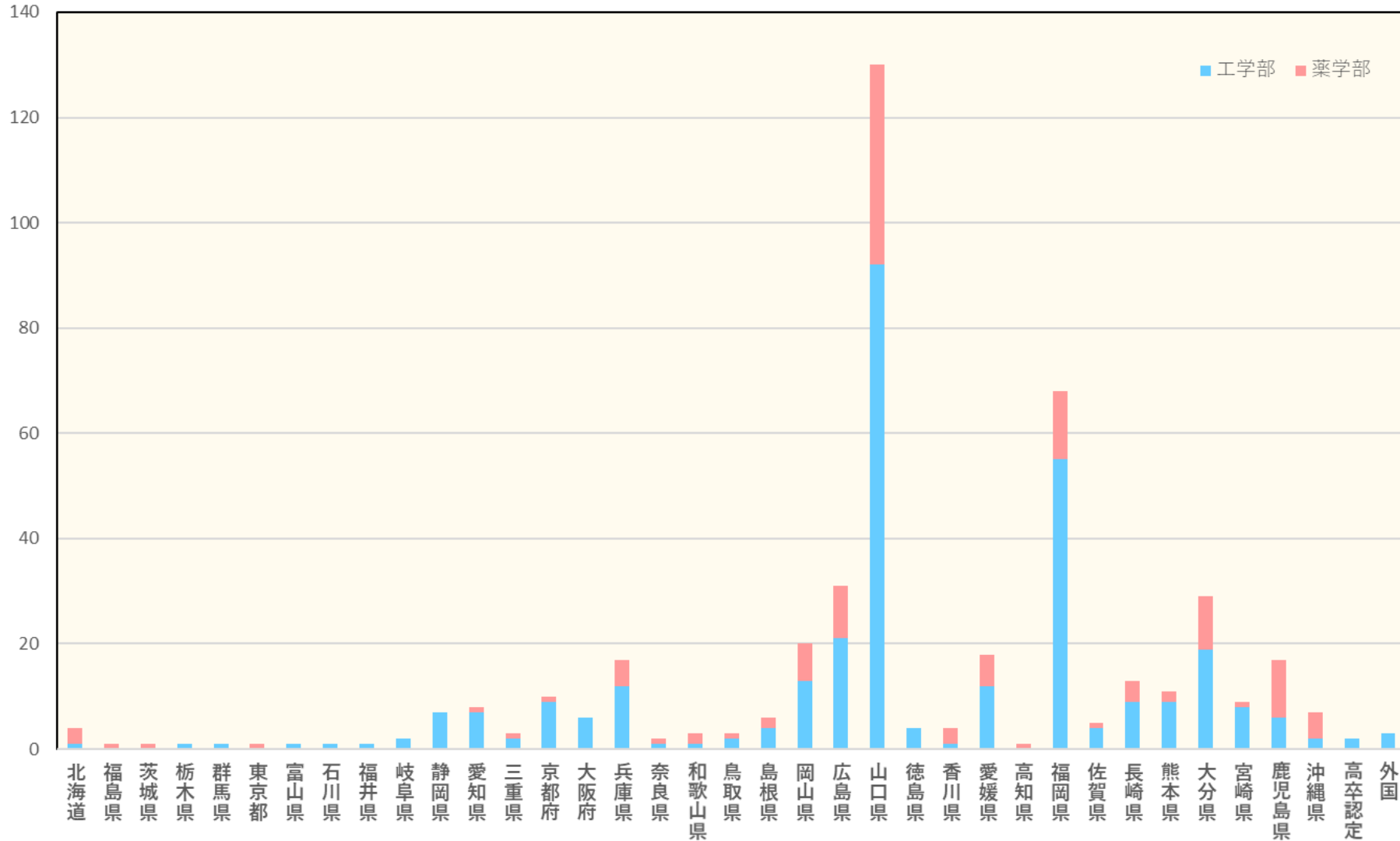


工学部・薬学部ともに女子が増加

(各年度5月1日現在)

令和6年度 入学者数 (学部・都道府県別)

(人)



(令和6年5月1日現在)

山口県は医薬品を生み出し育てる ライフサイエンスクラスター

【山口県】
原薬生産量
全国第3位
(2022年度実績)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

＜基本情報＞

改組予定年度：令和6年度

改組内容：学科の新設

(当該大学が授与する学位の
分野の変更を伴わないもの)

設置等組織名：工学部医薬工学科

入学定員：【R6新設】60名

所在地：山口県山陽小野田市

＜概要＞

事業期間：令和5年度から令和6年度

事業内容：新教室棟の整備

研究機器の購入に要する費用

バイオ産業の成長を牽引する

工学部
医薬工学科

バイオ技術 / AI・DX
/ 品質管理・経営管理



＜工学部医薬工学科の教育＞

- ・ **ライフサイエンスとデータサイエンス**の両方に精通しバイオ医薬品・医療機器、化粧品・食品に関する製造技術・プロセス開発、製品の品質評価・品質保証に貢献できる専門的な人材を育成
- ・ **バイオ技術と、AI・DX・データサイエンスの知識と技術、GMP品質管理・経営工学の知を実践的に活用**できる人材を育成
- ・ 山口県・山陽小野田市・**山口県製薬工業協会**に加盟する**企業との連携**を特色とし、「GMP品質管理」「薬事法規」「バイオ医薬品工学総論」「化粧品・医薬部外品総論」「バイオ・インフォマティクス」を展開
- ・ **他大学や企業との連携の下、アントレプレナーシップ教育や知財教育、技術経営教育の実施**
- ・ 「**GMPの3原則**」(人による間違いを最小限にする、医薬品の汚染等を防ぐ、高品質を保つ仕組みをつくる)に精通し、医薬品と工学の両方の知見を有するΠ(パイ)型の技術者を養成
- ・ **入学者選抜から出口まで一貫した質保証**

赤字：審査において「特筆すべき内容」と評価された点

山陽小野田市立山口東京理科大学

工学部と薬学部を設置する全国唯一の公立大学

この特色を活かし、工学×薬学×デジタルを融合した「医薬工学科」を2024年4月に設置します。原薬生産量が日本トップレベルの山口県の地で、世界的成長分野であるデジタル・バイオ技術のイノベーションをけん引する人材を養成します。



建設予定の新教室棟



＜教育研究環境の整備計画等＞

- ・ 最先端の教育研究を行う教員、**実務経験のある教員**を配置
- ・ DX教育環境と**ラーニングコモンズ**を備えた**新教室棟**を整備
- ・ グループ単位で議論に参加する**共創型の教育環境**を実現
- ・ **外部資金の獲得**を推進し、更なる研究力強化を図る
- ・ 山陽小野田市による官民連携事業（LABVの手法）にて**新たな学生寮を建設**（令和6年3月完成予定）
- ・ **入学者選抜における「女子枠」の設置や、女子寮・保育所**により安心して学べる環境を整備し、女性活躍に貢献
- ・ 地域のバイオ×デジタルの産業創出・人材育成拠点として「**バイオリジクスDXセンター**」を設置

学生寮を含む複合施設

(LABV (Local Asset Backed Vehicle) の手法を採用)



バイオ・デジタルトランスフォーメーション産業人材(バイオDX産業人材)を育成

Society5.0を具体化する高度情報専門人材を養成

改組内容：研究科等の設置・増員
 情報系組織名：＜修士＞工学研究科数理情報科学専攻
 ＜博士＞工学研究科数理情報科学専攻
 情報系組織の入学定員：＜修士＞【R6新設】改組後15名
 ＜博士＞【R8新設】改組後3名
 所在地：山口県山陽小野田市

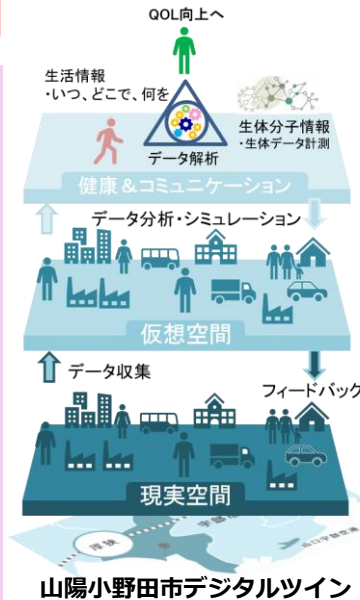
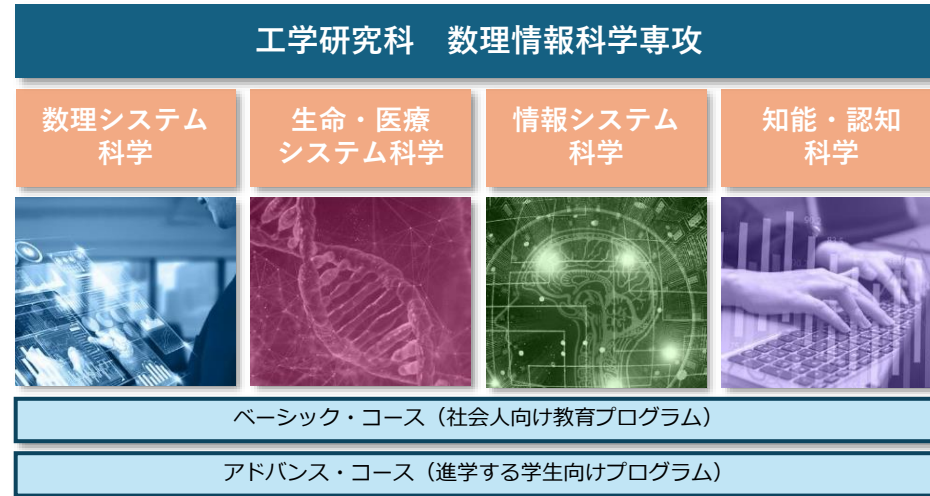


工学研究科 数理情報科学専攻

成長分野を牽引するデータサイエンティストを育成

＜数理情報科学専攻の教育＞

- ・数物理学を基礎とし最先端技術へと繋がる**情報科学を工学・薬学・医学と連携・融合**させ、様々なデータを活用した新たな産業へと繋がるデジタル社会をリードする人材を育成
- ・4つの分野から**主専攻と副専攻を選択**可能とし、複雑化する現象を横断的に俯瞰し課題を解決する「総合知」を育む
- ・学部との6年一貫コースを併設するとともに、オンラインを活用した**社会人教育プログラム**を編成
- ・実務家教員は、「先端人工知能論」、「応用生命情報学」、「データサイエンス創薬」、「エージェントシステム論」、「カテゴリカルデータ解析特論」等の授業科目を展開
- ・人材ニーズを踏まえ、地域産業に対応した特別研究を必修とし、**課題解決に挑戦する実践的なプログラム**を提供
- ・スタートアップからスケールアップに繋ぐことができる**アントレプレナーを発揮する**人材を養成
- ・企業や自治体との連携の下「**DX協創プラットフォーム**」を設置しており、物理空間(現実世界)に実在する地方都市の山陽小野田市を、仮想空間(バーチャル世界)で再現する「**デジタルツインDX・AI教育**」に取り組む



○教育研究環境の整備計画 (令和5年度から令和8年度)

- ・AI、RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) 等の企業や研究所で勤務経験のある実務教員をクロスアポイントメント制度を活用して配置
- ・学生の「**デザイン思考**」を促すスペースを整備するとともに、自治体、産業界、研究者など学内外のプレイヤーが対面やオンラインを通じ自由に集い交流する「**イノベーション・commons**」を整備する。

赤字：審査において「特筆すべき内容」と評価された点

山陽小野田市立山口東京理科大学

工学部と薬学部を設置する全国唯一の公立大学

この特徴を活かし、デジタル×工学×薬学が融合したデータサイエンス教育を扱う新学科「工学部数理情報科学科」を2023年4月設置しました。地域のイノベーション・活性化に貢献するため、2024年4月に数理情報科学専攻を設置します。



メジャー・マイナー制

専攻分野における高度な専門知識と、物事の本質を捉え、自由かつ独創的な発想で情報科学的ニーズに基づく課題を解決する能力を有するとともに、横断的に物事を俯瞰できる能力を養成します。

地域の課題解決

地域や行政に協力して、情報技術を活用して地域の社会課題の解決を支援する課題解決型教育を行い、地域課題解決のためにデータサイエンスを活用できる人材を養成します。

社会人のリカレント教育

社会人の多様なニーズに対応する教育プログラムを編成し、業務の繁忙にあわせて柔軟な受講が可能となるよう高度なメディアを活用し、多忙な社会人の時間的・空間的な障壁を低下させる教育を展開します。

現状・課題

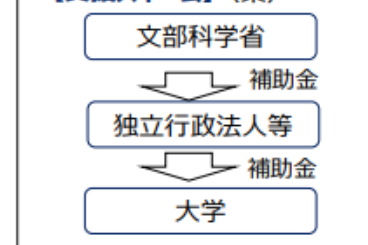
- G7 科学技術大臣コミュニケ（2023年5月）において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセス（OA）を支援する旨明記。これを受け、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時OAの実現に向けた国の方針を策定予定。
- この方針に基づき、**大学による研究成果（学術論文・研究データ）の管理・公開に関する体制の充実・強化**を図り、**産業界等にも開かれた知へのアクセス**を担保することで、研究成果の発信力を強化し、我が国の競争力を高める。

事業内容

公的資金による学術論文及び研究データの即時OA化を担保する体制を整備するため、研究データポリシーに基づく事業計画等を策定している大学を対象として、必要な以下の経費を支援

- ・研究成果の**管理・利活用システムの開発・高度化**に係る研究開発費
- ・研究成果の**管理・利活用システムの運用・体制強化**に係る経費
- ・研究成果の**OA化促進**に係る経費（論文掲載公開料等）

【支援スキーム】（案）



期待される効果等

- 各大学の研究データポリシーに基づく即時OA化に向けた体制整備・システム改革を促進
 - ⇒ **収載論文数・研究データの拡大、研究成果へのアクセスの拡大**
- 質の高い論文及び研究データの収載数が大幅に増加され、OA化を加速
 - ⇒ **OA率の上昇**
 - ⇒ **優れた研究成果の産業界での活用の促進、国際競争力の強化**

（担当：研究振興局参事官（情報担当）付）

結果の公表：令和6年7月5日
 公募期間：令和6年3月26日～
 5月8日17時
 応募件数：93件、採択件数：83件

【事業の趣旨】

オープンサイエンスは、論文のオープンアクセスと研究データのオープン化・共有化（オープンデータ）を含む、研究成果の共有・公開を推進し、研究活動の加速化や新たな知識の創造等を促す取組です。

本事業は、**オープンアクセスに係る全学的なビジョン（オープンアクセス方針・研究データポリシー等）に基づく事業計画等を策定している大学等を対象**として、

- ①研究成果の管理・利活用システム（機関リポジトリ等）の開発・高度化、
- ②学長等のリーダーシップのもと全学的なマネジメントによる当該システムの運用・組織体制強化、
- ③オープンアクセスを推進する学内支援策（戦略的なAPC支援等）等の実施を支援し、各大学等の即時オープンアクセスに向けた、体制整備・システム改革を加速させることを目的とします。

採択83件

区分別内訳（区分1：15件、区分2：28件、区分3：40件）
 機関別内訳（国立大学：53件、公立大学：5件、私立大学：20件、大学共同利用機関（法人含む）：5件）

○区分1（申請目安：2～6億円程度）

No.	種別	大学等名	連携機関名
1	国立	北海道大学	
2	国立	東北大学	
3	国立	筑波大学	
4	国立	東京大学	
5	国立	東京工業大学	
6	国立	京都大学	
7	国立	大阪大学	
8	国立	神戸大学	
9	国立	広島大学	
10	国立	九州大学	
11	国立	東海国立大学機構	
12	公立	大阪公立大学	
13	私立	慶應義塾大学	
14	大共	自然科学研究機構	
15	大共	国立情報学研究所	

○区分2（申請目安：1～2億円程度）

No.	種別	大学等名	連携機関名
1	国立	弘前大学	
2	国立	群馬大学	茨城大学
3	国立	千葉大学	
4	国立	東京農工大学	
5	国立	電気通信大学	
6	国立	横浜国立大学	
7	国立	新潟大学	
8	国立	金沢大学	福井大学、金沢医科大学
9	国立	山梨大学	
10	国立	信州大学	
11	国立	三重大学	
12	国立	岡山大学	
13	国立	山口大学	
14	国立	香川大学	
15	国立	愛媛大学	
16	国立	長崎大学	
17	国立	宮崎大学	東邦大学、南九州大学、九州医療科学大学、宮崎産業経営大学
18	国立	鹿児島大学	
19	国立	琉球大学	
20	公立	横浜市立大学	
21	公立	名古屋市立大学	
22	私立	東海大学	
23	私立	東京理科大学	
24	私立	明治大学	
25	私立	早稲田大学	
26	私立	帝京大学	
27	私立	藤田医科大学	
28	大共	人間文化研究機構	

○区分3（申請目安：5千万円程度～1億円程度）

No.	種別	大学等名	連携機関名
1	国立	岩手大学	
2	国立	山形大学	
3	国立	東京外国語大学	
4	国立	東京海洋大学	
5	国立	お茶の水女子大学	
6	国立	一橋大学	
7	国立	富山大学	
8	国立	静岡大学	
9	国立	名古屋工業大学	
10	国立	豊橋技術科学大学	
11	国立	滋賀大学	
12	国立	大阪教育大学	
13	国立	島根大学	
14	国立	徳島大学	
15	国立	高知大学	
16	国立	佐賀大学	
17	国立	熊本大学	
18	国立	大分大学	
19	国立	総合研究大学院大学	
20	国立	北陸先端科学技術大学院大学	
21	国立	奈良先端科学技術大学院大学	
22	国立	北海道国立大学機構	
23	国立	奈良国立大学機構	
24	公立	東京都立大学	
25	公立	山陽小野田市立山口東京理科大学	
26	私立	帝京平成大学	
27	私立	芝浦工業大学	
28	私立	東京医科大学	
29	私立	東京農業大学	
30	私立	東京都立大学	
31	私立	神奈川大学	
32	私立	麻布大学	
33	私立	名城大学	
34	私立	同志社大学	
35	私立	立命館大学	
36	私立	大阪医科大学	
37	私立	関西医科大学	
38	私立	産業医科大学	
39	大共	高エネルギー加速器研究機構	
40	大共	情報・システム研究機構	

【種別について】

国立：国立大学
 公立：公立大学
 私立：私立大学
 大共：大学共同利用機関（大学共同利用機関法人含む）

（出典）文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1421775_00009.html, 筆者マーク、加筆
https://www.mext.go.jp/content/20240705-mxt_jyohoka01-000036819_1.pdf

令和6年4月23日 理事会決定

(趣旨)

1. 山陽小野田市立山口東京理科大学（以下「本学」という。）は、本学に在職する研究者等による研究活動で得られた研究成果を広く公開し、研究成果の透明性と社会に対する説明責任の確保を図るとともに、世界の学術研究の発展、イノベーション創出、地域社会における研究成果の活用及び社会実装への貢献等を果たすため、オープンアクセスに関するポリシーを以下のように定める。

(研究成果の公開)

2. 本学は、出版社、学会及び学内の部局等が発行した学術雑誌等に掲載された研究者等の研究成果を、「山陽小野田市立山口東京理科大学機関リポジトリ」（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。ただし、研究成果の著作権は、本学には移転しない。

(適用の範囲)

3. 本ポリシーは、施行日以降に出版又は公表された研究成果に適用する。

(適用の例外)

4. 本学は、著作権等の理由や研究遂行上の支障等の理由により公開が不適切であるとの申し出が研究者等からあり、公開が適切でないと判断した場合、研究成果を公表しない。

(リポジトリへの登録)

5. 研究成果のリポジトリへの登録及びデータ利用等に関する取扱いについては、「山陽小野田市立山口東京理科大学機関リポジトリガイドライン」に定めるところによる。

(その他)

6. 本ポリシーに定めるもののほか、オープンアクセスに関する必要な事項は、関係者間で協議して定める。

以上

令和6年4月23日 理事会決定

(趣旨)

1. 山陽小野田市立山口東京理科大学（以下「本学」という。）は、建学の精神として「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を掲げている。

研究活動を通じて得られた研究データを適切に管理することは、独創的・先進的研究の推進において必要不可欠であり、また、研究データは学術水準の向上、イノベーション創出、地域社会及び世界の発展に必須の知の基盤の一つである。

そこで、本学は、研究データを適切に管理し、その公開等を通じて利活用を促進することにより、本学の理念を实践し、公立大学として人類社会の持続的発展に貢献することを目的として、研究データの管理、公開及び利活用に関するポリシーを以下のように定める。

(定義)

2. 本ポリシーにおいて「研究データ」とは、本学における研究活動の過程で研究者等によって収集又は生成された情報をいう。

(原則)

3. 本学は、原則として、研究データを収集又は生成した研究者等がその研究データの管理を行う権利と責務を有していることを認める。

(研究データの管理)

4. 研究者等は、研究データ管理が、優れた研究を行う上で必要不可欠であると認識し、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、各研究分野の法的及び倫理的要件にも従って研究データを適切に管理しなければならない。

(研究データの公開)

5. 本学及び研究者等は、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、各研究分野の法的及び倫理的要件にも従って、可能な限り社会に研究データを公開し、その利活用を促進する。

(研究データの管理、公開及び利活用の支援)

6. 本学は、研究データの管理、公開及び利活用を支援する環境を整える。

(その他)

7. 本ポリシーは、社会や学術状況の変化に応じて適宜見直しを行うものとする。

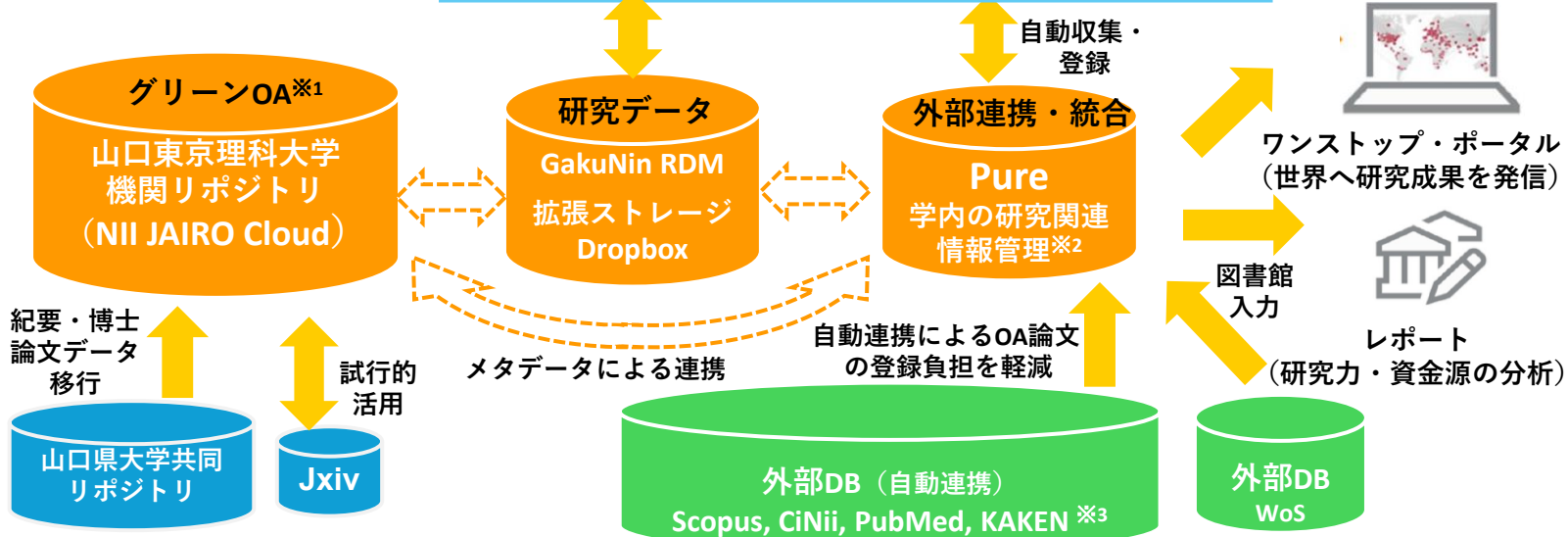
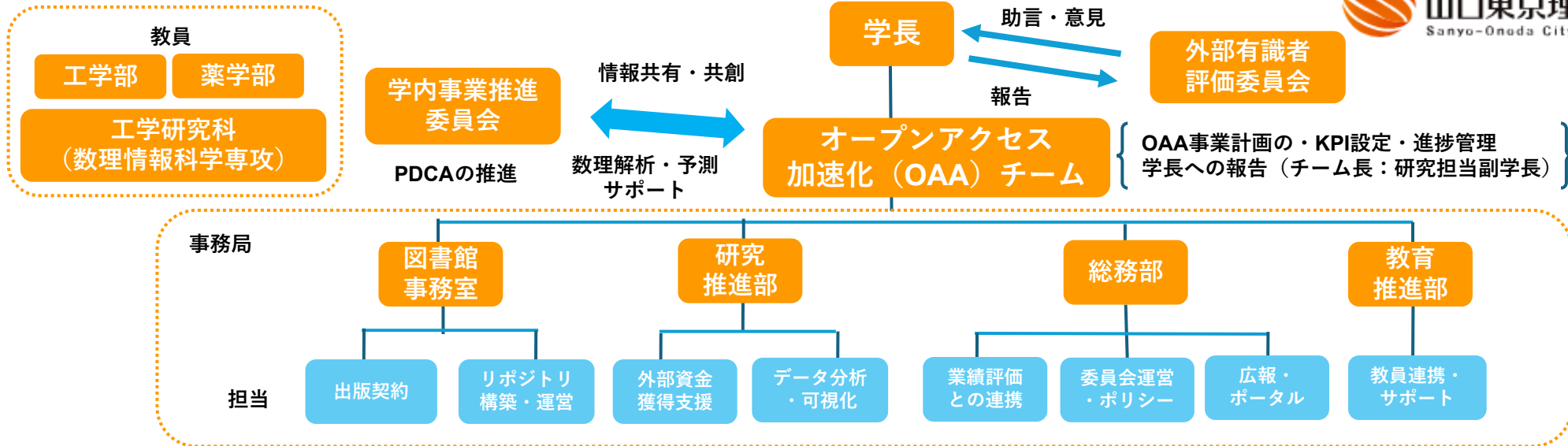
以上

総論

山陽小野田市立山口東京理科大学においては、オープンアクセス加速化事業により新たに国立情報学研究所（NII）共用リポジトリサービス（JAIRO Cloud）を活用した機関リポジトリへの移行・整備を行い、学術論文や根拠となる研究データ等（以下「学術論文等」という。）のオープンアクセス（以下「OA」という。）をOAポリシー及び研究データ管理・公開ポリシーに沿って迅速に推進する。また、小規模大学であるためのシステム構築の速さと応用工学分野における数理情報科学・計算科学の基盤を強みとし、研究者等ひとりひとりの学術論文の投稿先と引用・活用の実態の精査分析に基づく研究力・発信力の強化による論文数・引用数等の指標の向上、国際連携・産学連携におけるオープン・クローズ・イノベーション戦略に基づく研究データのオープン化・共有化（オープンデータ）・限定公開を含む、研究成果・知的財産の有効活用を推進する。

具体的な事業内容

- ①特定の競争的研究費（科研費、戦略的創造研究推進事業、創発的研究支援事業）により創出された学術論文等の即時OAの確保（100%）
- ②上記以外の公的資金による学術論文等の即時OAの段階的推進
- ③産業有用性の高い論文や研究データを対象としたOA又は限定公開によるセキュリティの確保・企業ニーズへの対応
- ④Jxiv(JSTプレプリントサーバ)等との連動による学術論文の迅速な公開・共有と研究成果に関する先取権獲得の支援スキームの整備
- ⑤研究者のプロファイリングや研究成果の可視化・情報発信の強化
- ⑥論文最終稿、プレプリントのセルフアーカイビング等に伴う評価
- ⑦事業の実施状況とKPIの達成度、波及効果等の評価
- ⑧上記⑥・⑦の評価のための学内事業推進委員会の設置・運営による効果的なPDCAの実施
- ⑨上記⑥・⑦の評価のための外部有識者評価委員会の設置・運営による効果的なPDCAの実施
- ⑩専門家の助言・国際科学コミュニティとの連携のためのOA化国際シンポジウムの開催



研究成果の科学界・産業界・国際社会・一般社会での活用促進



※1 著者最終稿を含めた学術論文データを受載
 ※2 ジャーナルのエンバゴ期間、ライセンス情報を記録。グリーンOA論文の効率的作成
 ※3 プレプリント、OA論文を含む。
 現時点では、Scopusのみ名寄せ済み。

自立的・継続的な即時オープンアクセスの推進

オープンサイエンスの振興・総合知への発展
 頭脳循環・地球規模の課題解決への貢献

研究資金の種類・研究ステージ・資金源別のオープンアクセスの考え方等

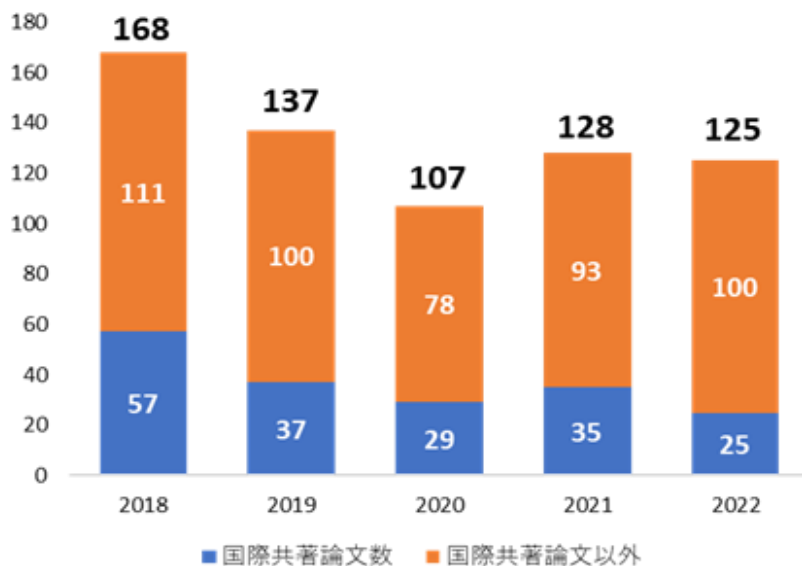
研究資金の種類と研究ステージ	①科研費、戦略的創造研究推進事業、創発的研究推進事業	②公的資金（①以外）による学術研究（基礎研究）	③公的資金（①以外）による産学連携研究（応用研究・開発・事業化）	④民間助成による研究（共同研究、受託研究、民間助成）
OAの考え方	即時OA	段階的に即時OA	オープン・クローズ戦略によるOA又は限定公開	オープン・クローズ戦略によるOA又は限定公開
APC負担（令和6年度）	研究費による負担、または、大学助成	研究費による負担、または、大学助成	研究費による負担、大学助成、または、民間助成	研究費による負担、または、民間助成
APC負担（令和7年度）	主として研究費による負担、または、大学助成	主として研究費による負担、または、大学助成	研究費による負担、大学助成、または、民間助成	研究費による負担、または、民間助成
転換契約	2024年度から可能なものは早期転換	2024年度から可能なものは早期転換	2024年度から可能なものは早期転換	2024年度から可能なものは早期転換
投稿ジャーナルの選択方針	できるかぎり高評価のジャーナルを選択して投稿し、即時OA（ゴールドOA、ハイブリッドOA等）を図るが、即時OAが可能なジャーナルについては、最終稿を機関リポジトリに収載するグリーンOAの可能性にも配慮。	できるかぎり高評価のジャーナルを選択して投稿し、即時OA（ゴールドOA、ハイブリッドOA等）を図るが、費用対効果や解禁期間も配慮し、当面は、最終稿を機関リポジトリに収載するグリーンOAも採用。	できるかぎり高評価のジャーナルを選択して投稿し、即時OA（ゴールドOA、ハイブリッドOA等）を図るが、費用対効果や解禁期間も配慮し、最終稿を機関リポジトリに収載するグリーンOAも採用。知財管理・活用の観点から一定期間、非公開の場合もある。	できるかぎり高評価のジャーナルを選択して投稿し、即時OA（ゴールドOA、ハイブリッドOA等）を図るが、費用対効果や解禁期間も配慮し、最終稿を機関リポジトリに収載するグリーンOAも採用。知財管理・活用の観点から一定期間、非公開の場合もある。
プレプリント段階での公開	ジャーナルの投稿・査読規定を確認の上で、プレプリント段階での公開メリットを検討。2024年度の試行的実施の中間評価を行い、OA方策に反映。	ジャーナルの投稿・査読規定を確認の上で、プレプリント段階での公開メリットを検討。2024年度の試行的実施の中間評価を行い、OA方策に反映。	左記①②と同様の活用の検討等を行うとともに、研究プロジェクトや研究成果の内容に応じて、知財管理・活用の観点から活用の可否を検討。	左記①②と同様の活用の検討等を行うとともに、研究プロジェクトや研究成果の内容に応じて、知財管理・活用の観点から活用の可否を検討。

表4 資金源別論文数・OA論文数・OA率の年推移の推算（KPI計画値）（山口東京理科大学）

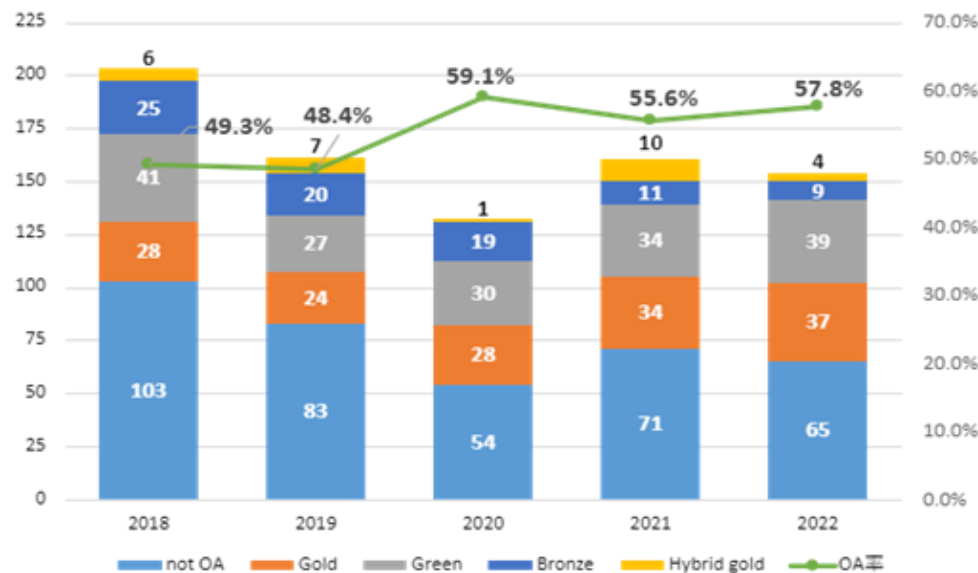
年度	2024	2024	2024	2025	2025	2025	2026	2027	2028
資金源	論文数	OA論文数	OA率	論文数	OA論文数	OA率	OA率	OA率	OA率
科研費等	37	37	100%	41	41	100%	100%	100%	100%
他の公的資金	2	2	100%	6	6	100%	100%	100%	100%
民間財団等	6	2	50%	8	4	50%	60%	60%	70%
海外機関	4	1	25%	5	2	40%	50%	60%	70%
その他	15	10	67%	8	6	70%	-	-	-
全体	64	52	81%	68	59	87%	87%	90%	90%

2024年度の資金別論文数は、2022年度の数値と同じ（科研費、戦略的創造研究推進事業、創発的研究支援事業（2022年度に1名採択）の成果で創出される論文数（2022年実績37本）と他の資金源の論文数（2022年実績27本）がほぼ同数）と仮定し(表4)、**科研費等の即時OA化を2024年度中に図る。**

論文数



オープンアクセス論文数



2025・2026年度、2027・2028年度は、それぞれOA化率は、同一であるが、**①論文数と質の増大**（2028年度までに、論文数とSCIE論文数を2022年の約**1.5倍**（それぞれ**180本**、**120本**）、**②機関リポジトリ収録の迅速化**（グリーンOAの加速）、**③プレプリントや研究データの公開等によりOAの規模・質の向上、加速化を図る。**

研究データの保存・公開、プラットフォームの構築

表2 学術論文の根拠となる研究データの公開の考え方等

根拠となる研究データ	1 論文中の図表に係る研究データ	2 論文中の図表以外に係る研究データ
データ公開の考え方	基本的に機関リポジトリで公開。 ジャーナルに公開方法・ツールがある場合は、これらを活用。	エディターとのやり取りの中で求められ、かつ学術の発展において有意義なものについては公開する。
データ公開する内容	図表の根拠となる数値、テキスト等	上記に関する数値、テキスト等

○現在、取り込み・管理・公開する研究データの方針を検討中。

(論文根拠データ、実験データ、テキスト、数値、グラフ、画像・音声・動画等)

○当初、オンプレミスのサーバー、ストレージ設置(購入)を予定・積算していたが、価格優位性・メンテナンス・収容場所・データ量の推算の困難性等から、クラウドを活用する方針に変更。GakuNin RDMと民間クラウドの併用(Dropbox)。

アクション・アイテム

(1) NII JAIRO Cloudを活用した新たな機関リポジトリへの収載・オープンアクセスの高度化

山口県大学共同リポジトリで公開していた紀要論文等も含めて、JAIRO Cloudへの移行を進め、OA論文のワンストップ化による他機関の研究者等との研究成果の共有を推進する。

(2) 学長のリーダーシップによる事業チームを中心としたプロジェクト・マネジメント、サポート体制の確立、DX化の推進等による入力・確認作業の実現

学長のリーダーシップによるオープンアクセス加速化(OAA)チーム編成、プロジェクト・マネジメント、高度情報サポート人材の活用、DX化等により入力・確認作業を軽減する。

(3) 外部データベースを利用したデータ入力の自動連携、成果の可視化・情報発信の強化

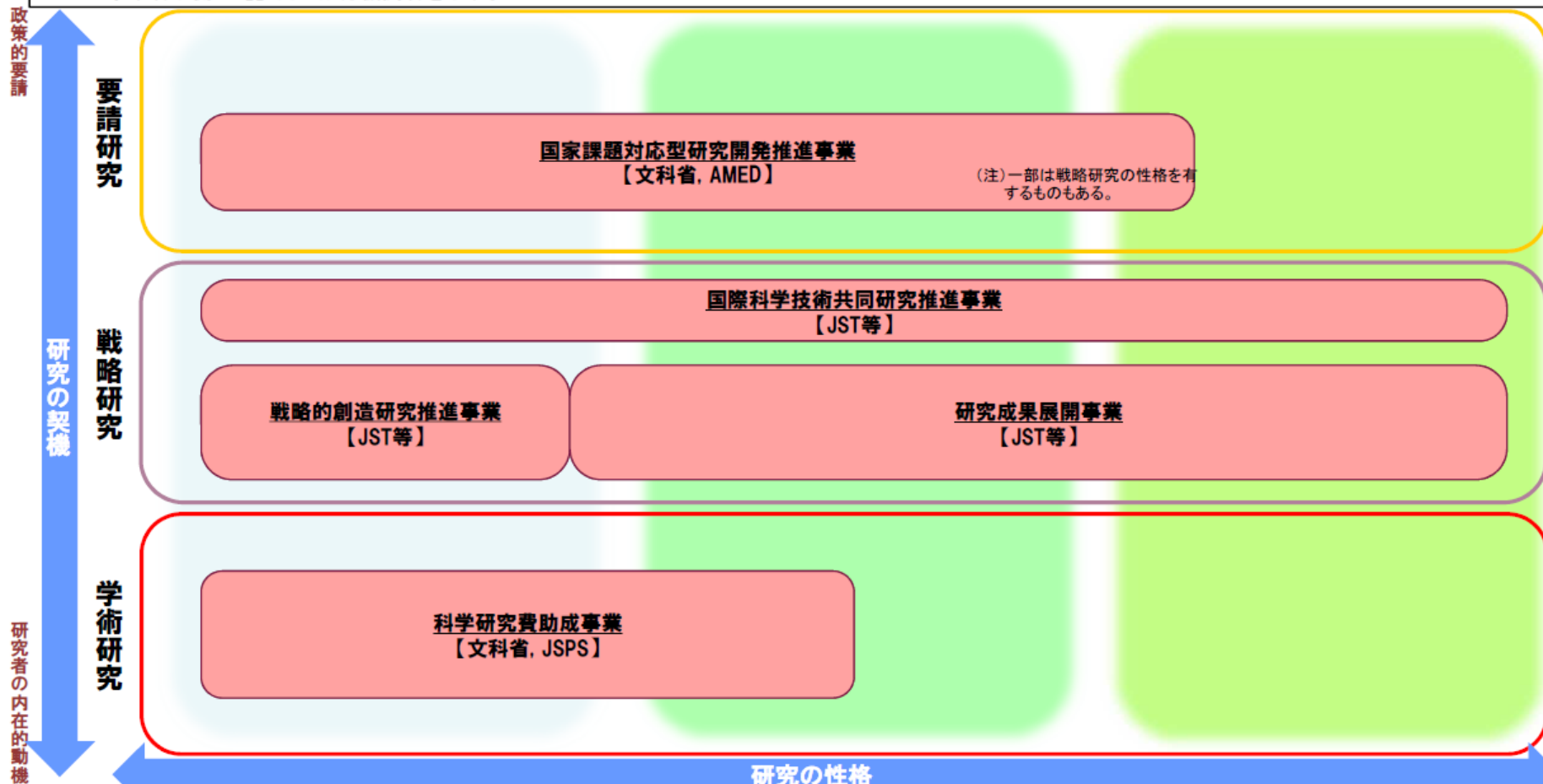
エルゼビア社の研究情報管理システム(Pure)の活用により、論文データの自動連携や研究者の活動の可視化・ワンストップ化を行う。

(4) 外部資金の確保によるAPC財源の安定的確保、転換契約の活用

創出される論文数と適切な投稿先について、本学の数理情報科学・計算科学の強みを生かし、戦略的に予測・立案し、APCの精度高い推算を行う。財務面では、競争的研究費や知財活動による収入源を確保するとともに、転換契約を活用し、APC負担の軽減を効果的に図る。

研究費マップ

○ 本資料は、「学術研究の総合的な推進方策について（最終報告）」（平成27年1月27日 科学技術・学術審議会学術分科会）等
 示された研究の分類に、文部科学省の競争的資金について試案としてプロットしたもの。各資金名を示した角丸四角形は、各資金がカ
 バーする主要な研究領域の範囲を概念的に示したものであり、ある座標において採択額・件数の多寡を表現しているものではない。
 ※区分内における上下の位置は、「政策的要請」又は「研究者の内在的動機」の要素の強弱を示すものではない。
 ※事業名下側の【】内は配分機関名を示す。



(略称) AMED: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 JSPS: 独立行政法人日本学術振興会 出典: 研究成果の持続的創出に向けた競争的研究費改革について (中間取りまとめ) 平成27年6月24日 競争的研究費改革に関する検討会
 JST: 国立研究開発法人科学技術振興機構 文科省: 文部科学省

(note1)
 科研費は、「研究者の自由な発
 想に基づく研究（学術研究）」
 と位置づけられている

(note2)
 学術論文及び根拠データの即時
 オープンアクセスの対象となる
 競争的研究費制度は、**文部科
 学省**による：
**日本学術振興会 (JSPS) 「科研
 費 (科学研究費助成助成事
 業)」、科学技術振興機構
 (JST)・日本医療研究開発機構
 (AMED) 「戦略的創造研究推進
 事業」、
 JST「創発的研究支援事業」
 (2025年度の公募から**即時OA**
 が
 求められる。)**

(出典) 関係府省申合せ「学術論文等の即
 時オープンアクセスの実現に向けた基本方
 針」(統合イノベーション戦略推進会議 令
 和6年2月16日決定)の実施にあたっての
 具体的方策」(令和6年2月21日、令和6年
 10月8日改正)
https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf



大学紹介

学部・大学院

キャンパスライフ

教育

研究・地域貢献

就職・進学

東京理科大学との連携

図書館・研究機関

学部・大学院

Department & Graduate school

工学部 ▶

機械工学科 ▶

電気工学科 ▶

応用化学科 ▶

数理情報科学科 ▶

医薬工学科 ▶

薬学部 ▶

薬学科 ▶

工学研究科 工学専攻 ▶

工学研究科 機械工学専攻 ▶

工学研究科 電気工学専攻 ▶

工学研究科 応用化学専攻 ▶

工学研究科 数理情報科学専攻 ▶

【社会人コース】
工学研究科 数理情報科学専攻 ▶

薬学研究科 薬学専攻 ▶

教員紹介 ▶

工学部 機械工学科



教授：貴島 孝雄
(Takao Kijima)

詳細を見る



教授：永田 寅臣
(Fusaomi Nagata)

詳細を見る



教授：結城 和久
(Kazuhisa Yuki)

詳細を見る



教授：吉田 和司
(Kazushi Yoshida)

詳細を見る



教授：吉村 敏彦
(Toshihiko Yoshimura)

詳細を見る



准教授：池田 毅
(Takeshi Ikeda)

詳細を見る



准教授：大塚 章正
(Akimasa Otsuka)

詳細を見る



准教授：神名 麻智
(Machi Kanna)

詳細を見る



准教授：千葉 良一
(Ryoichi Chiba)

詳細を見る



助教：加藤 博久
(Hirohisa Kato)

詳細を見る



助教：中道 友
(Yu Nakamichi)

詳細を見る



助教：結城 光平
(Kohei Yuki)

詳細を見る

職名	教授 (Professor)
学位	工学博士
専門分野	<ul style="list-style-type: none">ロボットのインテリジェント制御と産業応用、深層学習の応用
略歴	<ul style="list-style-type: none">九州工業大学工学部電子工学科九州松下電器株式会社福岡県工業技術センター研究員佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程修了
ウェブサイト	http://nagata.rs.socu.ac.jp/
研究者データベース	詳細はこちらから
研究シーズ	詳細はこちらから
SDGsの取組み	



主な研究課題

ピックアップレンズ成型金型など微細曲面を有する金型の仕上げ工程に対応できる超精密仕上げシステムの研究開発を行う。熟練者の技能に支えられ自動化が達成されていなかった超精密仕上げ作業について、その技能の本質部分の抽出とデジタル化を図り、それをもとにしたソフトウェアとハードウェアの両面からのアプローチにより、知能機械システムの提案を目指します。

知能機械システムの開発

(デスクトップ型自動仕上げシステムなど)



研究者情報



- 基本情報
- 研究者基本情報
- 主な研究課題
- 所属
- 研究分野
- 研究経歴
- 研究職歴
- 委員歴/役員歴
- 学位
- 出身大学
- 研究情報
- 著作(論文等)
- 著書
- 学会発表
- その他業績
- 特許
- 受賞歴
- 学会活動
- 高員教授
- researchmap研究分野
- 産学連携情報
- 共同研究テーマ
- 教育情報
- 学識経験
- シリーズ
- シリーズURL

基本情報

氏名 永田 貴臣
 氏名 (カナ) ナガタ フサオミ
 氏名 (英語) NAGATA Fusaomi

基本情報

研究者基本情報 [TOP](#)

永田 貴臣 ナガタ フサオミ NAGATA Fusaomi
http://nagata.rs.socu.ac.jp/research_2016.htm
<http://nagata.rs.socu.ac.jp/>

主な研究課題

- 周波数解析、サーモグラフィによる工作機械や生産ラインの異常検出とIoTによる通知システム (Anomaly detection system of CNC machine tools or other manufacturing lines based on frequency analysis and IoT notification system)
 - Deep Learning, CNN, サポートベクタマシン, 畳み込みオートエンコーダ(CAE), YOLO, GAN, VAE, FCDD, FastFlow, PatchCore などを用いた製品欠陥検出システムの開発 (Defect inspection system using deep learning techniques)
 - ORiN2 SDK を用いた産業用ロボットアプリケーションの開発 (CAD/CAM Interface for an Industrial Robot VS068 Incorporated with ORiN2 SDK)
 - リバースエンジニアリングのためのデータインタフェースの研究 (Data interface for reverse engineering, e.g., developments of preprocessor, postprocessor, curved surface fitting smoother, STL generator and so on)
 - 位置と力の弱干渉型ハイブリッド制御法の提案と産業用ロボットへの応用 ロボットのインテリジェント制御 (ファジィ、ニューラルネット、遺伝的アルゴリズムなど) 知能機械システムの開発 (デスクトップ型自動仕上げシステムなど)
- ピックアップレンズ成型金型など微細曲面を有する金型の仕上げ工程に対応できる超精密仕上げシステムの研究開発を行う。熟練者の技能に支えられ自動化が達成されていなかった超精密仕上げ作業について、その技能の本質部分の抽出とデジタル化を図り、それをもとにしたソフトウェアとハードウェアの両面からのアプローチにより、知能機械システムの提案を目指します。

[全て表示する \(6件\)](#)

所属 [TOP](#)

山口東京理科大学 工学部機械工学科 教授

研究分野 [TOP](#)

知能機械システム Intelligent machine system

研究経歴 [TOP](#)

- 1985 ~ 1988 データターミナルのソフトウェア開発 Software development of data terminal system
 - 1989 ~ 1990 デザイン情報ネットワークシステムのソフトウェア開発 Software development of design information network system
 - 1991 ~ 1996 3次元設計/加工システムに関する研究 Development of 3D design and manufacturing system
 - 1997 ~ 2001 ロボットサンダーの研究開発 (平成12年度NEDOベンチャー企業支援型地域コンソーシアム研究開発事業(中核的産業創造型)) Development of 3D robot sander
 - 2002 ~ 2005 金型磨きロボットの研究開発 (平成14年度経済産業省即効型地域新牛コンソーシアム研究開発事業) Development of mold polishing robot
- [全て表示する \(10件\)](#)

研究職歴 [TOP](#)

- 1985 ~ 1988 九州松下電器株式会社 技師 Kyushu Matsushita Electric Co., Ltd.
 - 1989 ~ 2006 福岡県工業技術センター 研究員 Fukuoka Industrial Technology Center
 - 2006 ~ 2008 山口東京理科大学 基礎工学部 電子・情報工学科 助教授 Department of Electronics and Computer Science, Tokyo University of Science, Yamaguchi
 - 2009 ~ 2011 山口東京理科大学 工学部 機械工学科 准教授 Department of Mechanical Engineering, Tokyo University of Science, Yamaguchi
 - 2010 ~ 2021 岡山大学工学部 非常勤講師 (機械システム系学科システム工学科一ス)
- [全て表示する \(6件\)](#)

委員歴/役員歴 [TOP](#)

- 2016 ~ 現在 International Journal of Artificial Intelligence and Machine Learning (IJAIML) Associate editor
 - 2016/06/02 ~ 現在 International Society of Artificial Life and Robotics International Organizing Committee Member for the International Symposium on Artificial Life and Robotics
 - 2017/08/20 ~ 現在 Journal of Engineering (Mechanical Engineering), IET Digital Library Associated Editor
 - 2019/06/21 ~ 現在 Associate Editor, International Journal of Artificial Intelligence and Machine Learning (IJAIML)
 - IEEE Industrial Electronics Society Reviewer
- [全て表示する \(6件\)](#)

学位 [TOP](#)

- 佐賀大学 Saga University 機械力学・制御 Machine mechanics/control 博士 (工学) Dr. Eng.

出身大学 [TOP](#)

- 九州工業大学 Kyushu Institute of Technology 工学部 Faculty of Engineering 電子工学科 Department of electronic engineering 大学 卒業
- 佐賀大学 Saga University 大学院工学系研究科 Graduate School of Science and Engineering システム生産科学 The Department of Advanced Systems Control Engineering 博士課程 修了

研究情報

著作(論文等) [TOP](#)

- 学習レス型データセットモデルの提案と欠陥検出への応用 画像ラボ, 日本工業出版, 2025/12 Vol. 36, pp. 1 ~ 6
 - Evaluation of Anomaly Monitoring System for Numerical Control Machine Tools Using Neural Networks , Procs. of The 30th International Symposium on ARTIFICIAL LIFE AND ROBOTICS (AROB 30th 2025), 2025/01/23 , pp. 1149-1154,
 - Application of Variational Autoencoder Modeler for Systematically Analyzing Training Process - Its Application to Image Generation and Anomaly Detection -, Procs. of The 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 30th 2025), 2025/01 , pp. 1123 ~ 1128,
 - Defect Detection and Its Visualization of Industrial Products Using Transfer Learning-Based CNN Models and Fully Convolutional Data Description Models , Procs. of The 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 30th 2025), 2025/01 , pp. 1247-1252,
 - A study on the effective use of supervised data using contrastive learning in defect detection , Procs. of The 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 30th 2025), 2025/01 , pp. 1243-1246,
- [全て表示する \(394件\)](#)

著書 [TOP](#)

- 3D CNNs for Smart Manufacturing Voxel-Based Classification of Industrial Workpieces, AI-Driven Smart Industrial Technologies IGI Global 2025/12/31
 - AI-Powered Defect Detection Using Deep Learning Enhancing Industrial Automation with U-Net and YOLOv3, AI-Driven Smart Industrial Technologies IGI Global 2025/12/31
 - Chapter title: Design and Evaluation Support System for Convolutional Neural Network, Support Vector Machine and Convolutional Autoencoder, Measurements and Instrumentation for Machine Vision , CRC Press, Taylor & Francis Group 2024/06
 - Chapter title: Visual Feedback Control for Quadcopter with Object Count Function Through Real-Time Movie Frames and for Pick and Place Robot with Orientation Estimator, in Handbook of Research on New Investigations in Artificial Life, AI, and Machine Learning IGI Global 2022/02
 - Chapter title: An Efficient Learning of Neural Networks to Acquire Inverse Kinematics Model, Handbook of Research on Advanced Robotics and Intelligent Automation in Manufacturing IGI Global, Pennsylvania, USA 2019/12
- [全て表示する \(33件\)](#)

学会発表

TOP

- MathWorksから紹介されている様々なニューラルネットワークモデルを簡単に構築・評価できるツールの紹介 ポスター発表 MATLAB EXPO 2025 2025/05/29 ~ 2025/05/29
- 学習レス型確率分布データセットモデルを用いた欠陥と類似特徴の検出ツールの紹介 ポスター発表 MATLAB EXPO 2025 2025/05/29 ~ 2025/05/29
- FCDDモデルを用いた欠陥検出とコンカレントな可視化 口頭発表 (一般) 日本非破壊検査協会2024年度製造工程検査部門ミニシンポジウム 2025/03/27 ~ 2025/03/27
- 学習レス型データセットモデルによる欠陥検出と類似画像の探索 - 類似性の評価にKLD, L2ノルム, コサイン距離を適用した場合の性能評価 - 口頭発表 (一般) 日本非破壊検査協会2024年度製造工程検査部門ミニシンポジウム 2025/03/27 ~ 2025/03/27
- CNNとルールベース型AIを組み合わせた手の検出モデルの作成 ポスター発表 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 2024/12/18 ~ 2024/12/20

[全て表示する \(251件\)](#)

その他業績

TOP

- CNN 設計支援システムを用いた細胞培養日数推定のためのCNNの構築と評価 2023/03/13
- YOLOv2による工業製品の欠陥領域の検出 一欠陥領域の検出精度と信頼度を向上させる一手法 2023/03/13
- 金属の火花試験の自動評価のための3D CNNと2D CNNの分類性能の比較 2023/03/13
- 画像認識・深層学習の基礎と欠陥検出・不良品検出への応用 2022/07/06
- 東京理科大学理恵技術士会 第19回定時総会特別講演会「畳み込みニューラルネットワーク(CNN)・畳み込みオートエンコーダ(CAE)・サポートベクタマシン(SVM)のための設計支援ツールの開発と評価」 2022/05/28

[全て表示する \(6件\)](#)

特許

TOP

- ロボット軌跡の教示方法 特許第4447746号
- 研磨装置及び研磨方法 特許第4216557号
- ロボットの力制御方法 特許第4094781号
- レリーフ壁の成形システムおよびレリーフ壁の成形工法、並びにレリーフ壁のエアフロー成形システム 特開2006-103200

受賞歴

TOP

- The 5th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering (ICIAE2017), Best Paper Award The 5th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering (ICIAE2017), Best Paper Award 2017/03/30
- 産業応用工学会全国大会2023 優秀論文発表賞 2023/09/06
- Journal of Artificial Life & Robotics, Excellent Reviewer Award, 2022 Journal of Artificial Life & Robotics, Excellent Reviewer Award, 2022 2023/01/26
- SI2022優秀講演賞 2022/12/23
- 産業応用工学会全国大会2022 産業応用工学会賞 2022/09/08

[全て表示する \(14件\)](#)

学会活動

TOP

- The 7th International Conference on Machine Learning and Intelligent Systems (MLIS 2025) Technical Program Committee Member The 7th International Conference on Machine Learning and Intelligent Systems (MLIS 2025) Technical Program Committee Member 2025/02/06 ~ 2025/11/26
- New Trends in Robotics: Automation and Autonomous Systems, Participating Journals Actuators Automation Electronics Machines Robotics, MDPI Topic Editors New Trends in Robotics: Automation and Autonomous Systems, Participating Journals Actuators Automation Electronics Machines Robotics, MDPI Topic Editors 2025/01/25 ~ 2026/01/31
- 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics Co-chair of organized session of AROB2025, OS of Evolving Robotics and Machine Learning Applications 30th International Symposium on Artificial Life and Robotics Co-chair of organized session of AROB2025, OS of Evolving Robotics and Machine Learning Applications 2024/09/23 ~ 2025/01/24
- LOGI - Scientific Journal on Transport and Logistics Editorial Advisory Board Member LOGI - Scientific Journal on Transport and Logistics Editorial Advisory Board Member 2024/08/17 ~ 現在
- World Automation Congress 2024, Applied Machine Learning and Artificial Intelligence for Autonomous Vehicles in the 21st Century, Technical Program Committee Member World Automation Congress 2024, Applied Machine Learning and Artificial Intelligence for Autonomous Vehicles in the 21st Century, Technical Program Committee Member 2024/05/31 ~ 2024/09/26

[全て表示する \(98件\)](#)

客員教授

TOP

researchmap研究分野

TOP

- 知能機械学・機械システム Intelligent mechanics/mechanical system 産業用ロボット、インテリジェント制御、深層学習、サポートベクタマシン、力制御、メカトロニクス、周波数解析による異常診断、IoTアプリケーションの開発 Industrial robot, Intelligent control, Deep learning, SVM, Force control, Mechatronics

産学連携情報

共同研究テーマ

TOP

- Deep Learning (深層学習)を応用した製品の自動欠陥検出システムの開発 Application of Deep Convolutional Neural Network to Visual Inspection
- 位置と力のハイブリッド制御を応用した知的自動機械システム Intelligent machining system using hybrid position/force control
- 周波数解析による工作機械や生産ラインの異常診断システムの開発 Anomaly detection system based on frequency analysis technique for NC machine tools and automation systems

教育情報

学歴経歴

TOP

- 2021 岡山大学工学部 非常勤講師
- 2020 岡山大学工学部 令和2年度非常勤講師
- 2019 岡山大学工学部 非常勤講師
- 2018 岡山大学工学部 非常勤講師
- 2017 岡山大学工学部 非常勤講師

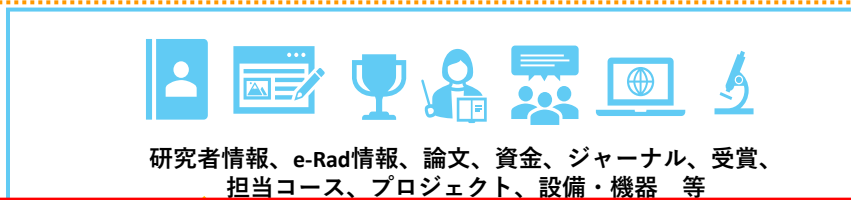
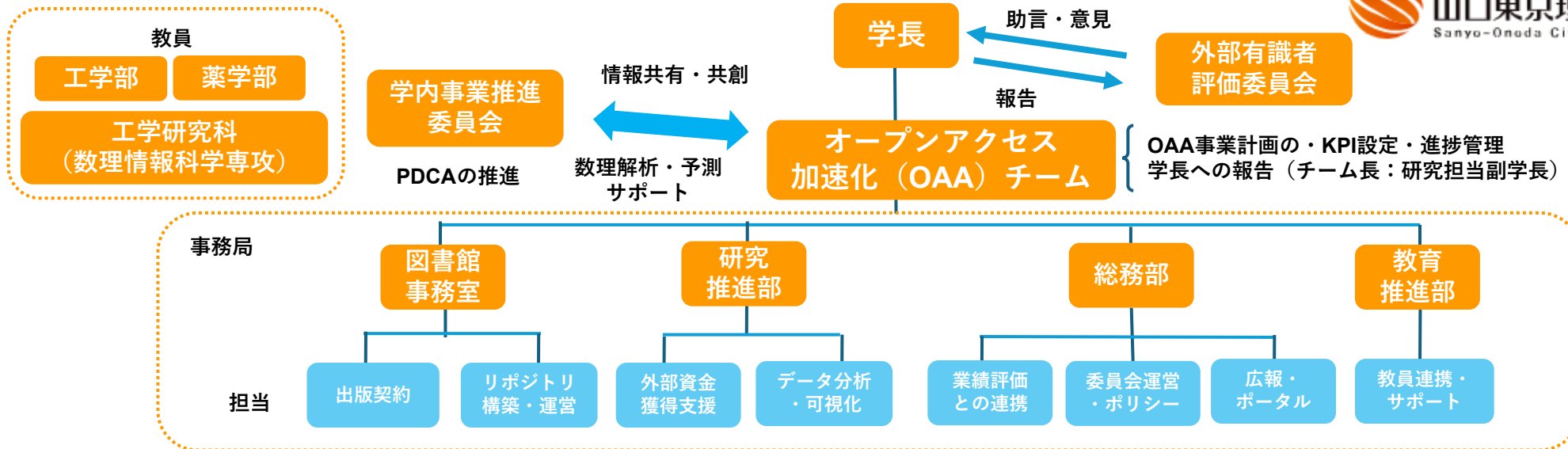
[全て表示する \(13件\)](#)

シリーズ集

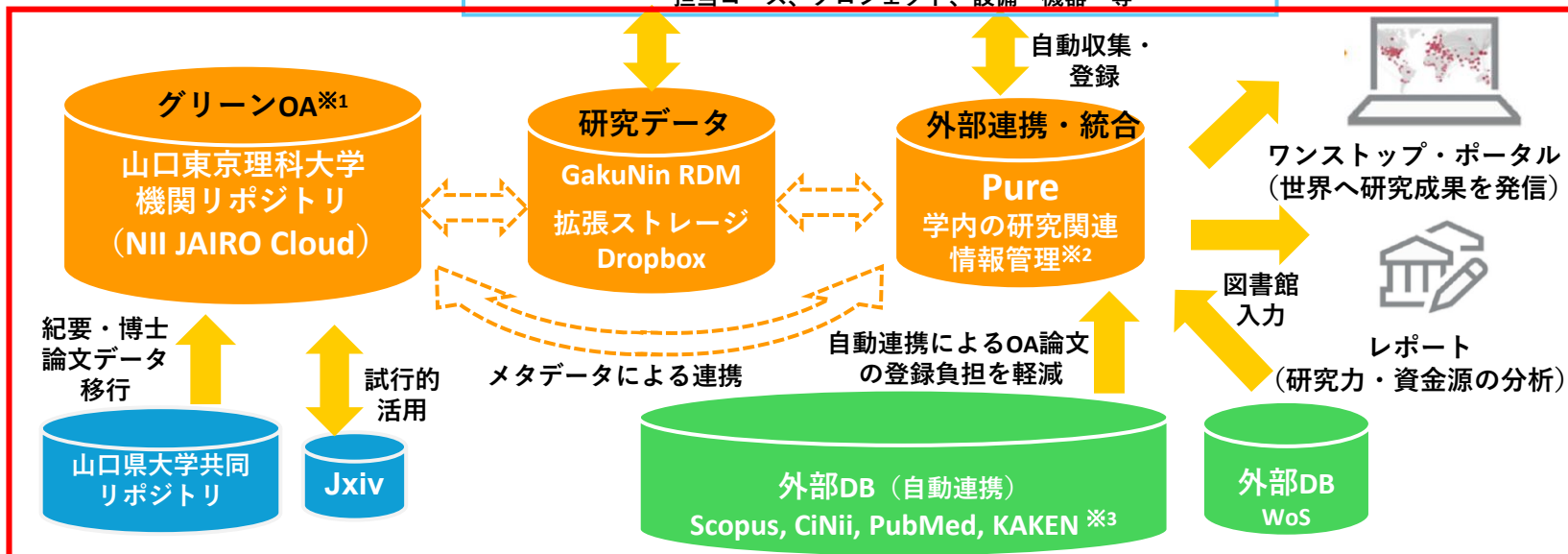
シリーズURL

TOP

- http://www.tusy.ac.jp/uploads/images/tusy_profile_10.pdf



研究成果の科学界・産業界・国際社会・一般社会での活用促進



※1 著者最終稿を含めた学術論文データを取載
 ※2 ジャーナルのエンバゴ期間、ライセンス情報を記録。グリーンOA論文の効率的作成
 ※3 プレプリント、OA論文を含む。
 現時点では、Scopusのみ名寄せ済み。

自立的・継続的な即時オープンアクセスの推進

オープンサイエンスの振興・総合知への発展
頭脳循環・地球規模の課題解決への貢献

本学リポジトリのJAIRO Cloudへの移行について

山陽小野田市立山口東京理科大学のリポジトリサイトは、2025年2月10日より国立情報学研究所が提供する共用リポジトリサービス「JAIRO Cloud」に移行いたします。新システムのURLは下記となります。

(新URL) 2025年2月10日から
<https://socu.repo.nii.ac.jp/>

(旧URL)
<https://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tr>

カテゴリ
お知らせ

(新URL) 2025年2月10日から
<https://socu.repo.nii.ac.jp/>

図書館案内

図書館の使い方
図書館について

利用ガイド

利用ガイド
ILL (貸借・複写) / 館内複写
各種申込書

調べる・探す

蔵書検索
データベース
電子ジャーナル
電子ブック
映像コンテンツ
山口東京理科大学リポジトリ
利用上の注意 (電子リソース)

学外の方へ

学外の方へ

リポジトリ

トップ [ランキング](#)

入力後、Enterキーを押下し検索してください

🔍 検索

▼ 詳細検索

全文 キーワード

インデックスツリー

- ▼ 山陽小野田市立山口東京理科大学紀要
 - ▷ 創刊号
 - ▷ 第2号
 - ▷ 第3号
 - ▷ 第4号
 - ▷ 第5号
 - ▷ 第6号
 - ▷ 第7号
 - ▷ 第8号
- ▼ 学位論文
 - ▷ 博士論文
- ▼ 資源タイプ
 - ▷ 紀要
 - ▷ 博士論文

Index List

📄 山陽小野田市立山口東京理科大学紀要

90 items

📄 学位論文

7 items

📄 資源タイプ

97 items

カウンター

COUNTER 320

お問い合わせ

山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
〒756-0884
山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL:0836-88-4512

リポジトリ

カウンター

COUNTER 320

お問い合わせ

山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
〒756-0884
山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL:0836-88-4512

トップ | ランキング

統計期間: 2024-03-03 ~ 2025-03-03

最も閲覧されたアイテム

- 1 (27) 密度汎関数理論によるGa-P同時ドーピングBa8Cu6Ge40クラスレート の電子構造の研究
- 2 (26) インフラトン場について
- 3 (21) 電解オゾン生成用金属酸化物電極

最もダウンロードされたアイテム

- 1 (16) ナノ材料を用いた有機/無機ハイブリッド熱電材料の創製
- 2 (14) フロセミド錠の先発医薬品および後発医薬品の溶出性比較試験
- 3 (11) 公私協力方式による大学等設置の背景
- 4 (11) 須佐の郷学育英館—益田親施の時代を中心として—

最も検索されたキーワード

- 1 (12) ナノ材料
- 2 (12) 医薬品
- 3 (10) ケイ素
- 4 (9) オゾン
- 5 (9) ナノクラスター

support.rdm.nii.ac.jp/release/0.6.0/

サイト内検索 ENGLISH NII 国立情報学研究所WEBサイト

GakuNin RDM サポートポータル

はじめての方 ご利用中の方 機関管理者の方 ログイン

リリースノート > GakuNin RDM (ver.0.6.0)

リリースノート

リリースノート: 目次

GakuNin RDM (ver.0.6.0)

GakuNin RDM version 0.6.0 (2020/4/1リリース)

- 画面表示の日本語・英語対応

GakuNin RDMの画面表示について、ブラウザの言語設定の変更により、日本語・英語表記を切り替えることが可能になりました。

PAGETOP

利用規約 プライバシーポリシー サイトポリシー お問い合わせ
学認ブランド ソースコード 採用情報

NII RCOS


GakuNin RDM
国立情報学研究所
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
© 2022 National Institute of Informatics

The screenshot shows the GakuNin RDM website. The main heading is "The place to share your research". Below it, a paragraph describes the system: "GakuNin RDMは、国立情報学研究所が提供する研究データ管理システムです。研究チームが持つ多様なデータを一元管理し、効率的で公正なデータ活用をサポートします。". The GakuNin RDM logo is centered. At the bottom, there is a copyright notice: "Copyright © 2016-2025 国立情報学研究所 | 利用規約 | プライバシーポリシー".

Annotations on the right side of the image highlight specific elements:

- An orange box around the "選択" button in the top navigation bar, with a callout box containing the text "山陽小野田市立山口東京理科大学 クリック!".
- An orange box around the "ログイン" button at the bottom of the login form, with a callout box containing the text "クリック!".

アドオンを選択

アドオンを構成

アドオンを選択

プロジェクトを外部サービスと同期して、接続と整理を維持します。カテゴリーを選択し、オプションを参照します。

カテゴリー	検索する...																								
すべて	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>Amazon S3</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Azure Blob Storage</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Bitbucket</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Box</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Dataverse</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Dropbox</td> <td>無効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>figshare</td> <td>有効にする</td> </tr> <tr> <td></td> <td>GakuNin Federated Computing</td> <td>有効にする</td> </tr> </table>		Amazon S3	有効にする		Azure Blob Storage	有効にする		Bitbucket	有効にする		Box	有効にする		Dataverse	有効にする		Dropbox	無効にする		figshare	有効にする		GakuNin Federated Computing	有効にする
	Amazon S3	有効にする																							
	Azure Blob Storage	有効にする																							
	Bitbucket	有効にする																							
	Box	有効にする																							
	Dataverse	有効にする																							
	Dropbox	無効にする																							
	figshare	有効にする																							
	GakuNin Federated Computing	有効にする																							
その他																									
文献管理																									
ストレージ																									

アドオンを構成

Dropbox is certified by Noriko Shiomitsu

Disconnect Account

Current Folder: / (Full Dropbox)


change

Google Drive

Sign in with Google



非公開 P 0 ...

メンバー: [Noriko Shiomitsu](#)
 所属機関: [山陽小野田市立山口東京理科大学](#)
 作成日時 2025-01-23 01:15 PM | 最終更新日時 2025-02-18 04:18 PM
 カテゴリー:  プロジェクト
 説明: プロジェクトに簡単な説明を追加してください
 ライセンス: ライセンスなし

Wiki [🔗](#)

重要な情報、リンク、または画像をここに追加して、プロジェクトを説明してください。

ファイル [🔗](#)

ストレージプロバイダーをクリックするか、ドラッグ&ドロップしてファイルをアップロードします

[🔍 フィルタ](#) [i](#)

名前 ^ v	最終更新日時 ^ v
 Test	
-  Dropbox: / (Full Dropbox)	
 Jxiv_+Cover_総説「女性研究者」を対象にした男女共同参画・科...	2025-01-23 01:24 PM
-  NII Storage	

引用 [v](#)

コンポーネント [コンポーネントを追加](#) [プロジェクトをリンク](#)

コンポーネントを追加して、プロジェクトを整理します。

タグ

タグを追加してプロジェクトを発見しやすくする

最近の活動 [更新](#) [フィルタをクリア](#)

開始日時 終了日時

ユーザでフィルタ (現在のメンバーから選択)

過去のプロジェクトメンバーも含めて検索する

-  Noriko ShiomitsuがTestからアドオンAzure Blob Storageを削除しました 2025-02-18 04:18 PM
-  Noriko ShiomitsuがTestからアドオンAmazon S3を削除しました 2025-02-18 04:18 PM
-  Noriko Shiomitsuがタイムスタンプ確認をしました 2025-02-18 04:18 PM

研究データストレージ: GakuNin RDM (標準) + Dropbox (機関/拡張)

GakuNin RDM

マイプロジェクト 検索 サポート Noriko Shiomitsu

Test ファイル Wiki メンバー アドオン 設定 証跡管理

名前 ^v	サイズ	バージョン	ダウンロード	最終更新日時 ^v
Test				
- Dropbox: / (Full Dropbox)				
- Jxiv_+Cover_総説 「女性研究者」を対象にした男女共同参画・科学技術イノベーション政策の変遷と今後の課題_塩満... 1.4 MB				2025-01-23 01:24 PM
- NII Storage				

名前 ^v

名前 ^v	サイズ	バージョン	ダウンロード	最終更新日時 ^v
Test				
- Dropbox: / (Full Dropbox)				
- Jxiv_+Cover_総説 「女性研究者」を対象にした男女共同参画・科学技術イノベーション政策の変遷と今後の課題_塩満... 1.4 MB				2025-01-23 01:24 PM
- NII Storage				

Copyright © 2016-2025 国立情報学研究所 | 利用規約 | プライバシーポリシー

Scopus (スコーパス) 世界最大級の抄録・引用文献データベース

Scopusは、全分野の学術文献を網羅する世界最大級の抄録・引用文献データベースである。豊富なデータ量とその利便性により、文献検索から分析評価、教育ツールとしての利用まで、様々な用途で活用されている。

主な特徴

- ・ 全分野（科学・技術・医学・社会科学・人文科学）のジャーナル、会議録、ブックの8,600万件以上の文献を収録している。
- ・ 1970年以降の参考文献を収録し、論文が何（誰）を引用し、論文が何（誰）から引用されているかを確認することができる。
- ・ 高度なアルゴリズムにより名寄せされた1,700万件以上の著者プロフィールと94,000件以上の機関プロフィールを備えている。

SciVal (サイバル) 研究力分析ツール

SciValは、Scopusデータに基づいて世界の21,000以上の研究機関と234か国の研究パフォーマンスに関する客観的なデータを簡単に取得できるツールである。優れたビジュアル機能により、データを分かりやすく可視化することができる。

主な特徴

- ・ 世界最大級の抄録・引用文献データベースScopusをデータソースとしている。
- ・ 目的に応じて4つのモジュール（Overview、Benchmarking、Collaboration、Trends）から選択できる。
- ・ 論文数、被引用数、分野を補正した相対被引用インパクト（FWCI）、トップ論文、国際共著論文等、多彩な指標を提供している。
- ・ 引用関係に基づくトピックや検索キーワードによるSDGs関連の研究領域等、多様な研究テーマが予め定義されている。

Pure (ピュア) 研究情報管理システム

Pureは、世界500以上の大学・研究機関で導入実績があるSaaS型の研究情報管理システム（Research Information Management System : RIMS）である。研究に関連する情報を一元管理することで、研究者や部局別プロフィール、研究成果等を機関の目的に応じて活用し、研究戦略に関するエビデンススペースの意思決定を促進している。

- ・ 基本のCoreモジュールに加えて、5つのモジュール（Award Management、Pure Portal、Reporting、CV、Community）から選択できる。
- ・ 同一プラットフォーム上に機関内外の研究関連情報を集約し、研究者のプロフィールや研究成果と紐づけて一元管理できる。
- ・ 強力なElsevier Fingerprint Engineで、フィンガープリント（重み付けしたキーワード群）を生成し、研究の専門領域を明示している。

指標の概要 (2019 to 2025)

498 ▲

Scholarly Output ①

50.6% All Open Access

[View list of publications](#)

303 ▲

Authors

[Download full list of authors](#)

0.62

Field-Weighted Citation Impact ①

[Yearly breakdown](#)

3,869

Citation Count ①

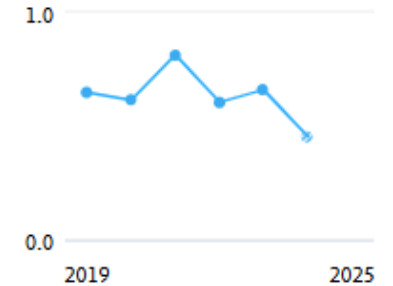
7.8

Citations per Publication ①

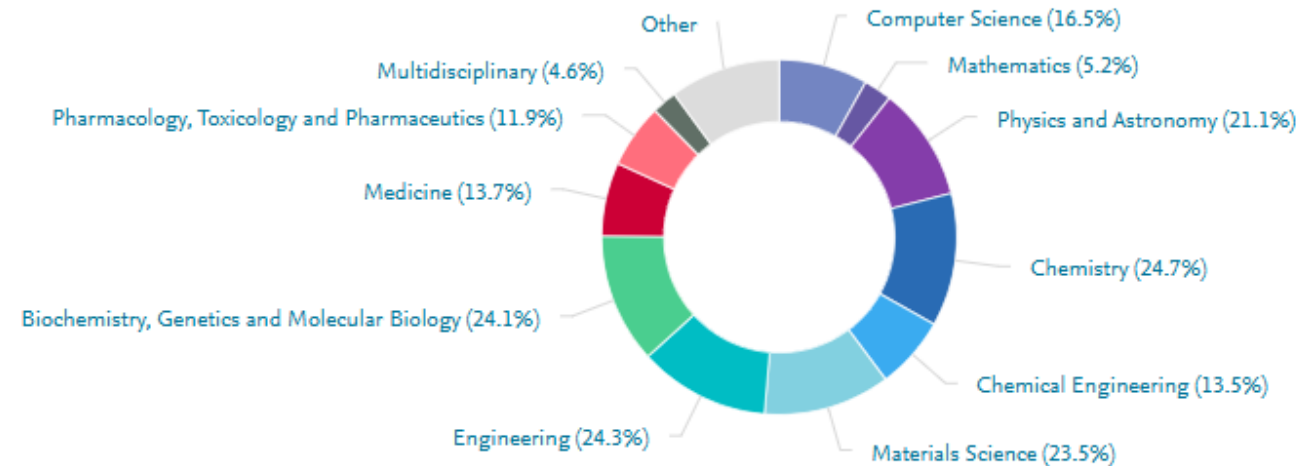
22

h5-index ①

Yearly breakdown



研究分野ごとの論文割合 (2019 to 2025)



Between 2019 to 2025, researchers at Sanyo-Onoda City University have contributed to:

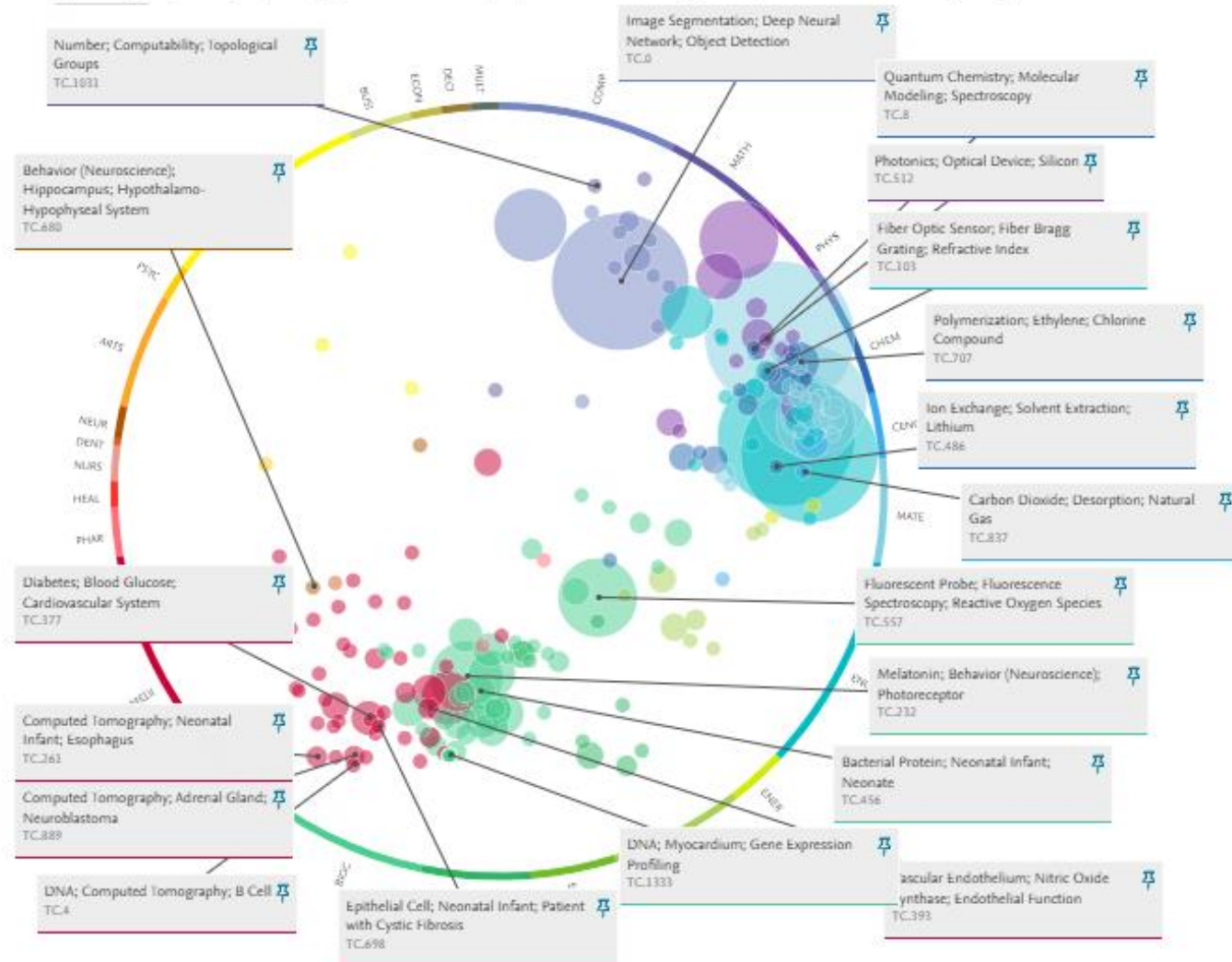
197 Topic Clusters

293 Topics

Table Wheel Scatter

All Topic Clusters Search

Show All by Scholarly Output Bubble size: Scholarly Output of this Institution Bubble position is based on dominant ASJC categories. Learn more >

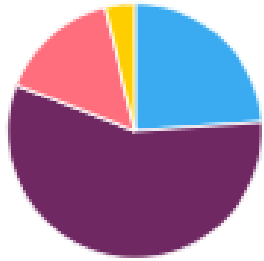


Subject area abbreviations

- COMP Computer Science
- MATH Mathematics
- PHYS Physics and Astronomy
- CHEM Chemistry
- CENG Chemical Engineering
- MATE Materials Science
- ENGI Engineering
- ENER Energy
- ENVI Environmental Science
- EART Earth and Planetary Sciences
- AGRI Agricultural and Biological Sciences
- BIOC Biochemistry, Genetics and Molecular Biology
- IMMU Immunology and Microbiology
- VETE Veterinary
- MEDI Medicine
- PHAR Pharmacology, Toxicology and Pharmaceuticals
- HEAL Health Professions
- NURS Nursing
- DENT Dentistry
- NEUR Neuroscience
- ARTS Arts and Humanities
- PSYC Psychology
- SOCI Social Sciences
- BUSI Business, Management and Accounting
- ECON Economics, Econometrics and Finance
- DECI Decision Sciences
- MULT Multidisciplinary

地域別共同研究

International, national and institutional collaboration by Sanyo-Onoda City University in the selected year range.



Metric	Publication share	Scholarly Output	Citations	Citations per Publication	Field-Weighted Citation Impact
International collaboration	23.9%	119	1,901	16.0	1.14
Only national collaboration	57.0%	284	1,588	5.6	0.48
Only institutional collaboration	15.3%	76	222	2.9	0.30
Single authorship (no collaboration)	3.8%	19	158	8.3	0.69

現在の共同研究先



Institution	Co-authored publications	Field-Weighted Citation Impact Snowball metric	Citation Count Snowball metric
JPN Tokyo University of Science	63	0.50	462
JPN Kyushu University	35	0.48	160
JPN Okayama University	27	0.54	115
CHN Soochow University	27	2.28	1,031
EGY American University in Cairo	24	0.90	128
JPN Hiroshima University	24	0.55	134
JPN Tokyo Metropolitan University	21	0.93	322
JPN Keio University	19	0.76	291
JPN Shizuoka University	19	0.44	67
JPN Tohoku University	16	0.85	140



おいでませ山陽小野田市立山口東京理科大学



詳細検索



118

プロフィール



21

研究部門



3763

研究成果

山陽小野田市立山口東京理科大学について

本学は、「理学の普及をもって国運発展の基礎とする」という建学の精神のもと、工学部および薬学部を擁する地方公立大学として、地域社会に根差した教育・研究を行い、地域の発展に寄与することを使命としています。オープンアクセスを加速する研究情報プラットフォームの整備と研究活動の一層の可視化を通じて、産学官連携や国際的なネットワーキングを促進し、地域から世界に向けた情報発信と「知のコンバージェンス（総合知）」の共創、知財活用、イノベーション創出、社会実装による社会貢献を目指しています。

国連の持続可能な開発目標

国連の持続可能な開発目標

2015年9月、193か国が貧困を撲滅し、地球を保護し、すべての人々の繁栄を確保するための一連の世界目標を採択することに同意しました。右側の目標をクリックすると、山陽小野田市立山口東京理科大学の研究者とその研究がその達成にどのように貢献しているかをご覧ください。











過去5年の共同研究と上位研究分野

過去5年の共同研究と上位研究分野

点や丸をクリックして詳細を表示する。 [リストから国/地域を選択](#)



- Absorption Spectroscopy
- Photovoltaics
- Residual Stress
- Oxygen Evolution
- Corrosion Resistance
- (Material Science)
- Imine
- (Chemistry)
- Cell Penetrating Peptide
- Diseases
- (Pharmacology, Toxicology etc.)

 Absorption Spectroscopy Material Science	 Photovoltaics Material Science	 Residual Stress Material Science	 Oxygen Evolution Material Science
 Cell Penetrating Peptide Pharmacology, Toxicology an...	 Imine Chemistry	 Corrosion Resistance Material Science	 Diseases Pharmacology, Toxicology an...

すべてを検索

nagata



詳細検索

コンテンツタイプ

プロフィール (1)
研究成果 (186)

プロフィール



寅臣 永田

機械工学科

1996 2024

1件のプロフィールをすべて表示 >

研究成果

Mechatronics Educational System Using Multiple Mobile Robots with Behavior-Based Control Approach

Nagata, F., Watanabe, K. & Habib, M. K., 21 1月 2013, *Mechanical Engineering Education*. John Wiley and Sons, p. 107-129 23 p.

研究成果: 書籍の章/レポート/Proceedings > 章 > 査読

Development of design and training application for deep convolutional neural networks and support vector machines

Nagata, F., Tokuno, K., Otsuka, A., Ochi, H., Ikeda, T., Watanabe, K. & Habib, M. K., 30 9月 2019, *Machine Vision and Navigation*. Springer International Publishing, p. 769-786 18 p.

研究成果: 書籍の章/レポート/Proceedings > 章 > 査読

Optimal allocation of statistical tolerance indices by genetic algorithms

Otsuka, A. & Nagata, F., 1 11月 2014, In: *Artificial Life and Robotics*. 19, 3, p. 227-232 6 p.

研究成果: ジャーナルへの寄稿 > 記事 > 査読

Optimal Allocation

Linear Combination

3
被引用数
(Scopus)

Optimal allocation of statistical tolerance indices by genetic algorithms

Otsuka, A. & Nagata, F., 11月 2014, In: Artificial Life and Robotics. 19, 3, p. 227-232 6 p.

研究成果: ジャーナルへの寄稿, 記事, 査読

Optimal Allocation Linear Combination

3
被引用数
(Scopus)

Development of Flexion Posture Formation Mechanism in Wearable Type of Flexor Tendon Rehabilitation Equipment

Ikeda, T., Matsutani, Y., Sato, M., Furuno, S. & Nagata, F., 6月 2023, In: Journal of Robotics and Mechatronics. 35, 3, p. 577-585 9 p.

研究成果: ジャーナルへの寄稿, 記事, 査読

Open Access

Wearables Brace Rehabilitation Equipment Flexor Tendon Body Position

Path planning for collision avoidance using a glid-like space

Ikeda, T., Hirao, Y., Furuno, S. & Nagata, F., 1 3月 2018, In: Artificial Life and Robotics. 23, 1, p. 80-86 7 p.

研究成果: ジャーナルへの寄稿, 記事, 査読

Path Planning Collision Avoidance Remote Control Precise Work

Basic position/force control of a single-axis arm designed with an ultrasonic motor

Nagata, F., Ogiwara, K. & Watanabe, K., 6月 2011, In: Artificial Life and Robotics. 16, 1, p. 102-106 5 p.

研究成果: ジャーナルへの寄稿, 記事, 査読

Stiffness Control Care Giver Elderly Person

2
被引用数
(Scopus)

186 件の研究成果をすべて表示 >








寅臣 永田

教授
機械工学科

Scopus著者プロフィール



-  概要
-  フィンガープリント
-  ネットワーク
-  研究成果 (167)
-  類似のプロフィール (3)

研究者プロフィール

UN SDGに関連する専門知識

2015年に、国連 (UN) 加盟国は、貧困を終わらせ、地球を保護し、すべての人の繁栄を保障するための17の全世界での持続可能な開発目標 (SDG) に合意しました。この人物の研究は、次のSDGに貢献しています。



過去5年の共同研究と上位研究分野

国/地域レベルにおける最近の外部共同研究。点をクリックして詳細を聞か、またはリストから国/地域を選択

個人別の場合は、国際連携が十分でない印象を受けます。

しかし、Pureの独自機能でもある「Fingerprints」を活用して、同じ研究キーワードを持つ機関内の研究者を横串に発見することができるようになります。



3

類似のプロファイル

フィンガープリント

Fusaomi Nagataが活動している研究トピックを掘り下げます。このトピックラベルは、この研究者の研究成果に基づきます。これらがまとまってユニークなフィンガープリントを構成します。

Robotics Engineering

Machine Tool Engineering

Computer Aided Manufactur Engineering

Industrial Robot Engineering

Control Force Engineering

Feedback Loop Engineering

Computer Aided Design Engineering

Stick Slip Motion Engineering

フィンガープリント

Fusaomi Nagataが活動している研究トピックを掘り下げます。このトピックラベルは、この研究者の研究成果に基づきます。これらがまとめてユニークなフィンガープリントを構成します。

並べ替え順 | **重み付け** | アルファベット順

Engineering

Robotics Machine Tool Computer Aided Manufacturing Industrial Robot Control Force Feedback Loop Computer Aided Design

3 プロファイル Servomotors Control System Feedforward Force Feedback Motion Control Feed Rate Force Model

3 研究部門 p Control Feed Rate Control Genetic Algorithm Numerical Control Contact Force Friction Force Nonlinearity

23 研究成果 force Data Control Experiment Mobile Robot Kinetic Friction Design Tool Robot Quadcopter

3 件 | 姓 (昇順) > | 検索結果をエクスポート



毅 池田

機械工学科

2017 2023



寅臣 永田

機械工学科

1996 2024



章正 大塚

機械工学科

2011 2024

機関内で同じ研究キーワードを有する研究者を見つけることが容易。

ネットワーク

機関の既存のネットワークを把握することで、直感的・分析的・計画的に戦略的かつ学際的なつながりを発展させ、将来のイノベーションを促進することが可能となる。

可視化 マップ プロファイル 研究部門

- プロファイル
- 外部研究者
- 研究部門
- 外部研究部門
- 数字を線上に表示

年

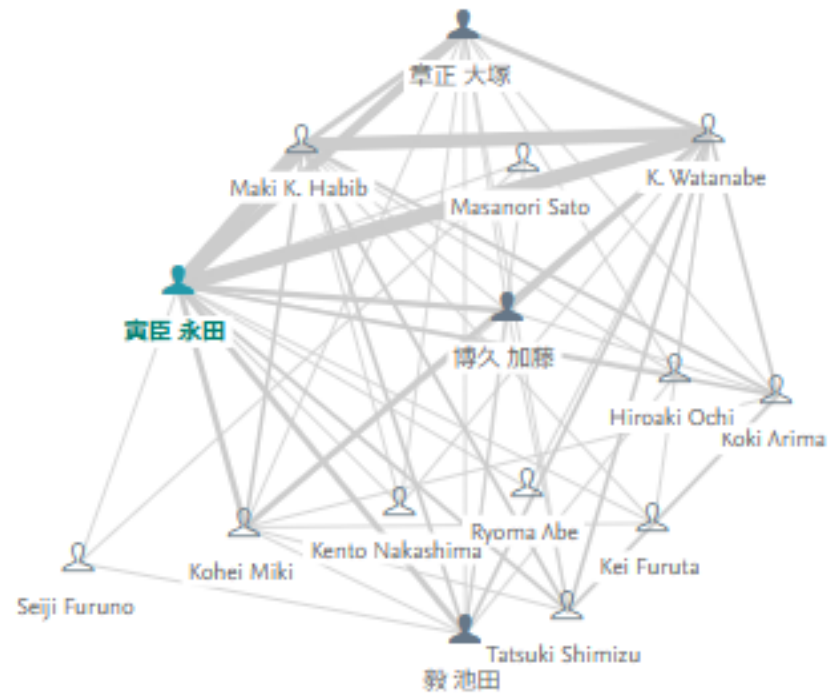
2020 ~ 2024

共著論文の最小値

2

- 共同研究の詳細を表示するには、図の線をクリックします。
コンテンツに関する情報を表示するには、アイコンをクリックします。

力指向 円 🔍 🔍 🔍 🔍



🏠 研究部門を検索



詳細検索

21件 | [名前\(昇順\)](#) | [検索結果をエクスポート](#)

表示方法 [グリッド](#) | [階層](#)

医薬工学科

工学部
組織部門: 部門

学長

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学長

共通教育センター

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学部

工学部

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学部

数理情報科学科

工学部
組織部門: 部門

電気工学専攻

工学研究科
組織部門: 部門

薬学専攻

薬学研究科
組織部門: 部門

応用化学科

工学部
組織部門: 部門

機械工学科

工学部
組織部門: 部門

工学研究科

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学校

山陽小野田市立山口東京理科大学

組織部門: 大学

数理情報科学専攻

工学研究科
組織部門: 部門

薬学科

薬学部
組織部門: 部門

薬学部

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学部

応用化学専攻

工学研究科
組織部門: 部門

機械工学専攻

工学研究科
組織部門: 部門

工学専攻

工学研究科
組織部門: 部門

事務局

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学部

電気工学科

工学部
組織部門: 部門

薬学研究科

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 学校

理事会

山陽小野田市立山口東京理科大学
組織部門: 取締役会

機械工学科

山陽小野田市立山口東京理科大学
工学部

[概要](#) | [フィンガープリント](#) | [ネットワーク](#) | [プロフィール \(12\)](#) | [研究成果 \(268\)](#)

👤 プロファイル

12件 | [姓\(昇順\)](#) | [🔍](#)

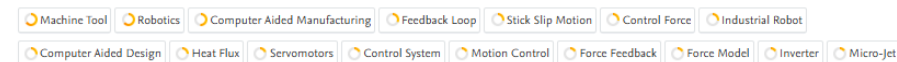


🔍 フィンガープリント

機械工学科が活動している研究トピックを掘り下げます。これらのトピックレベルは、この組織のメンバーの研究成果に基づきます。これらがまとまってユニークなフィンガープリントを構成します。

[並べ替え順](#) | [重み付け](#) | [アルファベット順](#)

Engineering



🌐 過去5年の共同研究と上位研究分野

研究成果の学術界、産業界、国際社会、および一般社会での活用促進

1 オープン・サイエンス・ソース（システム）としての研究データ・プラットフォーム

- フォームを活用した地域とのコラボ、産学官・国際連携
- 機関リポジトリを通じた**グリーンOA**・公開、
- GakuNin RDMと機関ストレージによる**研究データ管理**
- Pureやホームページを通じた可視化・発信

2 オープン・クローズ・イノベーション戦略

- 論文にならなかったデータが有するポテンシャルも活用
- 研究データの**著作権**、公知とした場合の**特許性**の喪失
- GakuNin RDMや機関ストレージの保管・活用

3 研究データ活用人材の育成、シチズンサイエンスの振興が地域活性化のカギ。

- 大学内に閉じない、共創に向けた研究データ活用のエコシステムを動かす**人**の重要性

オープンサイエンスの振興
・総合知への発展
頭脳循環・地球規模の
課題解決への貢献



キーワード：○即時オープンアクセスは、どれくらい**即時**で、機関リポジトリで可能か？

○**APC高騰**問題の解決は？ ○データの**著作権**は？

○分析・可視化システム、データベースの**共同利用**は？ 大学単独の契約？

○オープン・クローズの定義は？ 即時OAとの関係は？

○OAA人材、研究データマネジメント人材の育成方法・キャリアパスは？

○プレプリントの課題（研究不正（ねつ造・改ざん・**盗用**）を回避可能？）

学生寮を利用した新しい街づくり構想

LABV(官民協働開発事業体)による商工センター新開発



多世代が集う交流・にぎわい拠点をコンセプトに、商工会議所、銀行、商業店舗、市の出張所、山口東京理科大学の学生寮が隣接

LABV商工センターと研究データプラットフォームを、
大学の実学教育の拠点、学生と実社会との接点に